

# 入札説明書

【総合評価落札方式】

業務名称：プロジェクト研究「総合防災関連研修内容の検討」

調達管理番号：20a00845

- 第1 入札手続
- 第2 業務仕様書（案）
- 第3 技術提案書の作成要領
- 第4 経費に係る留意点
- 第5 契約書（案）
- 別添 様式集

注) 本案件の技術提案書及び入札書等の提出方法につきましては、「電子データ (PDF)」とさせていただきます。

なお、提出方法及び締切日時は「4. 担当部署等（2）書類授受・提出方法及びスケジュール」をご覧ください。

2021年2月17日

独立行政法人国際協力機構  
調達・派遣業務部

## 第1 入札手続

本件に係る入札公告に基づく入札については、この入札説明書によるものとします。なお、従来の書面（郵送）による手続きに代えて電子メール（以下、メールと記載）及びGIGAPODによる手続きを原則とするとともに、押印などの条件も緩和します。また、入札会は対面でない方式で行いますが、Microsoft Teams（それが困難な場合には電話も可とします。以下同様です）により入札会を中継します。

### 1. 公告

公告日 2021年2月17日  
調達管理番号 20a00845

### 2. 契約担当役

本部 契約担当役 理事

### 3. 競争に付する事項

- (1) 業務名称：プロジェクト研究「総合防災関連研修内容の検討」  
(一般競争入札（総合評価落札方式）)
- (2) 業務仕様：「第2 業務仕様書」のとおり
- (3) 業務履行期間（予定）：2021年4月上旬から2021年11月下旬  
(複数年度契約)

### 4. 担当部署等

- (1) 書類等の提出先

入札手続き窓口、各種照会等及び書類等の提出先は以下のとおりです。なお、本項以降も必要な場合にはこちらが連絡先となります(以降の文中で参照先としています)。

〒102-8012

東京都千代田区二番町5番地25 二番町センタービル  
独立行政法人国際協力機構 調達・派遣業務部契約第三課

【電話】03-5226-6609

【FAX】03-5226-6324

【メールアドレス】e\_sanka@jica.go.jp

当機構からのメールを受信できるよう、当機構のドメイン(jica.go.jp)またはメールアドレスを受信できるように設定してください。

## (2) 書類授受・提出方法及びスケジュール

### 1) 書類授受・提出方法

メール、GIGAPOD による書類の授受方法の詳細については JICA HP に掲載している「説明書等の受領方法および資格確認申請書・技術提案書・入札書の電子提出方法」(以下、「電子提出方法のご案内」と記載)をご覧ください。URL は以下のとおりです。

<https://www.jica.go.jp/chotatsu/buppin/ku57pq00002m0zt7-att/ku57pq00002mohlz.pdf>

### 2) 入札手続きのスケジュール及び方法

メールによる連絡/添付ファイル送付、GIGAPOD によるファイルの授受を行う際には別紙「手続・締切日時一覧」及び1)に記載した URL (電子提出方法のご案内)の内容をもとに手続きを行ってください。

### 3) 代表者印または社印を原則とする書類の押印が困難な場合の手続き

機密保持誓約書、競争参加資格確認申請書、下見積書、技術提案書、委任状および入札書については、全て代表者印又は社印の押印を原則とします。

ただし、押印が困難な場合は、機密保持誓約書を除き各書類送付時のメール本文に、社内責任者の役職・氏名とともに、押印が困難な旨を記載し、社内責任者より(もしくは社内責任者に cc を入れて)メールを送信いただくことで押印に代えることができます。

また、企業体結成届に押印が出来ない場合、各社から代表者名による共同企業体参加表明書(様式は任意、押印はなくても可としますが組織的承認を得ている旨の記載を本文に入れてください)を各社から取り付けることで押印に代えることも可とします。

## 5. 競争参加資格

### (1) 消極的資格制限

以下のいずれかに該当する者は、当機構の契約事務取扱細則(平成15年細則(調)第8号)第4条に基づき、競争参加資格を認めません。また、共同企業体の構成員や入札の代理人となること、契約の下請負人(業務従事者を提供することを含む。以下同じ。)となることも認めません。

#### 1) 破産手続き開始の決定を受けて復権を得ない者

具体的には、会社更生法(平成14年法律第154号)または民事再生法(平成11年法律第225号)の適用の申立てを行い、更生計画または再生計画が発効していない法人をいいます。

#### 2) 独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程(平成24年規程(総)第25号)第2条第1項の各号に掲げる者

具体的には、反社社会勢力、暴力団、暴力団員、暴力団員等、暴力団員準構

成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロ、特殊知能暴力集団等を指します。

- 3) 独立行政法人国際協力機構が行う契約における不正行為等に対する措置規程（平成20年規(調)第42号）に基づく契約競争参加資格停止措置を受けている者。

具体的には、以下のとおり取扱います。

- a) 競争参加資格確認申請書の提出期限日において上記規程に基づく資格停止期間中の場合、本入札には参加できません。
- b) 資格停止期間前に本入札への競争参加資格確認審査に合格した場合でも、入札執行時点において資格停止期間となる場合は、本入札には参加できません。
- c) 資格停止期間前に落札している場合は、当該落札者との契約手続きを進めます。

## (2) 積極的資格制限

当機構の契約事務取扱細則第5条に基づき、以下の資格要件を追加して定めま

### 1) 全省庁統一資格

令和01・02・03年度全省庁統一資格で、「役務の提供等」の資格を有すること。<sup>1</sup>

### 2) 日本国登記法人

日本国で施行されている法令に基づき登記されている法人であること。

## (3) 共同企業体、再委託について

### 1) 共同企業体

共同企業体の結成を認めます。ただし、共同企業体の代表者及び構成員全員が、上記(1)及び(2)の競争参加資格要件を満たす必要があります。共同企業体を結成する場合は、共同企業体結成届(様式集参照)を作成し、競争参加資格確認申請書(各社ごとに必要です)に添付してください。結成届には、構成員の全ての社の代表者印または社印を押印してください。

### 2) 再委託

再委託は原則禁止となります。

## (4) 利益相反

該当なし

## (5) 競争参加資格の確認

競争参加資格を確認するため、以下の1)を提出してください。

入札に進んだ競争参加者には入札会をMicrosoft Teamsで中継します。競争

<sup>1</sup> 平成31・32・33年度は令和01・02・03年度に読み替えてください。

参加資格確認申請書に記載頂く担当者メールアドレスに加えて、機構が Microsoft Teams 会議招集をするための連絡先部署、担当者氏名、メールアドレス（1アドレスに限ります）、電話番号（直通電話または携帯電話のいずれか）をメール本文に記載ください。

また Microsoft Teams での接続が困難な場合には、上記電話番号で中継しますので、その旨記載ください。

なお、両方とも困難な場合でも、上記情報は再入札を連絡する際に必要となりますので送付くださるようお願いいたします。

提出方法及び締切日時は別紙「手続・締切日時一覧」をご覧ください。

1) 提出書類：

- a) 競争参加資格確認申請書（様式集参照）
- b) 全省庁統一資格審査結果通知書（写）  
令和01・02・03年度全省庁統一資格審査結果通知書（写）  
（等級は問いません）
- c) 下見積書（「7. 下見積書」参照）
- d) 共同企業体を結成するときは、以上に加えて以下の提出が必要です。
  - ・共同企業体結成届
  - ・共同企業体を構成する社（構成員）の資格確認書類(上記 a)、b))

2) 確認結果の通知

競争参加資格の確認の結果はメールで通知しますので、別紙「手続・締切日時一覧」をご覧ください。

## 6. その他関連情報

該当なし

## 7. 下見積書

本競争への参加希望者は、競争参加資格の有無について確認を受ける手続きと共に、以下の要領で、下見積書の提出をお願いします。

下見積書には、商号または名称及び代表者氏名を明記し、押印してください。

- (1) 様式は任意ですが、金額の内訳を可能な限り詳細に記載してください。
- (2) 消費税及び地方消費税の額（以下「消費税額等」）を含んでいるか、消費税額等を除いているかを明記してください。
- (3) 見積書提出後、その内容について当機構から説明を求める場合があります。
- (4) 提出方法及び締切日時は別紙「手続・締切日時一覧」をご覧ください。
- (5) 見積書提出後、その内容について当機構から説明を求める場合があります。

## 8. 入札説明書に対する質問

- (1) 業務仕様書の内容等、この入札説明書に対する質問がある場合は、別紙「手続・締切日時一覧」に従い、質問書様式（別添様式集参照）に記載のうえ提出ください。
- (2) 公正性・公平性等確保の観点から、電話等口頭でのご質問は原則としてお断りしていますのでご了承ください。
- (3) 上記（1）の質問に対する回答書は、別紙「手続・締切日時一覧」に従い、以下のサイト上に掲示します。なお、質問がなかった場合には掲載を省略します。

国際協力機構ホームページ（ <https://www.jica.go.jp> ）

→「調達情報」

→「公告・公示情報」

（ <https://www.jica.go.jp/announce/notice/index.html> ）

→「主として国内対象」から該当する調達項目を選んでください。

- (4) 回答書によって、仕様・数量等が変更されることがありますので、本件競争参加希望者は質問提出の有無にかかわらず回答を必ずご確認ください。入札金額は回答による変更を反映したものとして取り扱います。

## 9. 技術提案書・入札書の提出

- (1) 提出期限及び提出方法：

新型コロナウイルスの感染防止のため、技術提案書（押印写付）・入札書（押印写付）とも、電子データでの提出を原則とします。提出方法及び締切日時は別紙「手続・締切日時一覧」をご覧ください。

なお、技術提案書、入札書とも GIGAPOD で同時に提出いただきますが、それぞれのパスワードをメールで機構に送付するタイミングが異なります。技術提案書のパスワードは技術提案書提出と同じタイミング、入札書のパスワードは入札開始時間から 10 分以内となりますのでご注意ください。

- (2) 提出書類：

- 1) 技術提案書（押印写付）

- 2) 入札書（押印写付）

- (3) 技術提案書の記載事項

- 1) 技術提案書の作成にあたっては、「第2 業務仕様書」、別紙「技術評価表」に記載した項目をすべて網羅してください。

- 2) 詳細は、「第3 技術技術提案書の作成要領」を参照ください。

- (4) その他

- 1) 一旦提出（送付）された技術提案書 PDF 及び初回の入札書 PDF は、差し替え、変更または取り消しはできません。

- 2) 開札日の前日までの間において、当機構から技術提案書に関し説明を求められた場合には、定められた期日までにそれに応じていただきます。
  - 3) 技術提案書等の作成、提出に係る費用については報酬を支払いません。
- (5) 技術提案書の無効
- 次の各号のいずれかに該当する技術提案書は無効とします。
- 1) 提出期限後に提出されたとき。
  - 2) 提出された技術提案書に記名、押印写がないとき。ただし、新型コロナウイルス感染拡大防止のための在宅勤務等で、社印又は代表者印の押印が困難な場合は、電子データでの送付時に責任者から送付いただくか、責任者を CC に入れて送付いただき、メール本文内に責任者の役職とお名前を明記くださるようお願いいたします。
  - 3) 同一提案者から内容が異なる提案が 2 通以上提出されたとき。
  - 4) 虚偽の内容が記載されているとき（虚偽の記載をした技術提案書の提出者に対して契約競争参加資格停止等の措置を行うことがあります）
  - 5) 前号に掲げるほか、本入札説明書に違反しているとき。

## 10. 技術提案書の審査結果の通知

- (1) 技術提案書は、当機構において技術審査し、技術提案書を提出した全者に対し、別紙「手続・締切日時一覧」に則し、結果を通知します。通知指定までに結果が通知されない場合は、上記 4. 窓口にメールでお問い合わせ下さい。  
なお、技術提案書が不合格であった競争参加者の入札書電子データは、当機構にて責任をもって削除します。
- (2) 入札会の対象は技術提案書の審査に合格した者のみとなります。
- (3) 技術提案書の審査の結果、不合格の通知を受けた者は、機構に対して不合格となった理由について、説明を求めることができます。詳細は、「18. その他(6)」を参照ください。

## 11. 入札執行（入札会）の日時及び場所等

入札執行（入札会）にて、技術提案書の審査に合格した者の提出した入札書を開札します。

入札会は当機構契約事務取扱細則第 14 条「契約担当役は、競争入札を執行しようとする場合は、競争に参加する者（以下「入札者」という。）を立ち合わせて開札をしなければならない。この場合において、入札者が立会わないときは、入札執行事務に関係のない職員を立ち合わせるものとする」を適用し、当機構のみで開催します。なお、詳細については「15. 入札執行（入札会）手順等」をご覧ください。

- (1) 日時：2021 年 3 月 30 日（火）午後 2 時
- (2) 場所：東京都千代田区二番町 5 番地 25 二番町センタービル  
独立行政法人国際協力機構 本部（内）会議室

※入札者には Microsoft Teams（それが困難な場合には電話も可とします）で中継します。

(3) 緊急連絡先：

入札開始時間になっても電話会議の連絡が来ない、途中で切れた場合には、「4. 担当部署等」に記載した番号に電話連絡ください。

(4) 再入札の実施

すべての入札参加者の応札額が機構の定める予定価格を超えた場合は再入札（最大で2回）を実施します。再入札は、初回入札に続けて実施しますので上記日時に再入札書をメールで送付できるよう遠隔で待機ください。

## 12. 入札書

(1) 第1回目の入札書（押印写付）の提出方法及び締切日時は別紙「手続・締切日時一覧」をご覧ください。

(2) 第1回目の入札は、入札件名、入札金額を記入して、原則代表者による入札書としますが、再入札では、必要に応じ代理人を定めてください。

(3) 機構からの指示により再入札の入札書（押印写付）は、入札件名、入札金額を記入して、パスワード付き PDF をメールに添付して提出ください。なお、別メールによるパスワードの送付は機構から指示によってください。

1) 代表権を有する者自身による提出の場合は、その氏名及び職印（個人印についても認めます）。

2) 代理人を定める場合は、委任状を再入札書と同時に提出のうえ、法人の名称または商号並びに代表者名及び受任者（代理人）名を記載し、代理人の印（委任状に押印したものと同一印鑑）を押印することで、有効な入札書とみなします。

3) 委任は、代表者（代表権を有する者）からの委任としてください。

4) 宛先：「4. 担当部署等（1）書類等の提出先」をご覧ください。

件名：【再入札書の提出】（調達管理番号）\_（法人名）

(4) 入札金額は円単位で記入してください。記入に際しては、桁取り誤り、宛先（発注者名）の記入ミス等に十分注意して応札してください。なお、千止めではありませんので端数（1円単位）までご記入ください。

例：123,456,789円⇒123,456,789円で入札してください。

(5) 入札価格の評価は、「第2 業務仕様書」に対する総価（円）（消費税等に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約希望金額の110分の100に相当する金額）をもって行います。

(6) 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の100分の10に相当する額を加算した金額をもって落札価格とします。

(7) 入札者は、一旦提出した入札書を引換、変更または取消することが出来ません。

(8) 入札者は、入札公告及び入札説明書に記載されている全ての事項を了承のうえ



入札書を提出したものとみなします。

(9) 入札保証金は免除します。

### 13. 入札書の無効

次の各号のいずれかに該当する入札は無効とします。

- (1) 競争に参加する資格を有しない者のした入札
- (2) 入札書の提出期限後に到着した入札
- (3) 委任状を提出しない代理人による入札
- (4) 記名を欠く入札
- (5) 金額を訂正した入札で、その訂正について押印のない入札
- (6) 入札件名、入札金額の記載のない入札、誤字、脱字等により意思表示が不明瞭である入札
- (7) 明らかに連合によると認められる入札
- (8) 同一入札者による複数の入札
- (9) その他入札に関する条件に違反した入札
- (10) 条件が付されている入札

### 14. 落札者の決定方法

総合評価落札方式（加算方式）により落札者を決定します。

- (1) 評価項目  
評価対象とする項目は、第2. 業務仕様書の別紙評価表の評価項目及び入札価格です。
- (2) 評価配点  
評価は300点満点とし、  
技術評価と価格評価に区分し、配点をそれぞれ  
技術点 200点  
価格点 100点  
とします。
- (3) 評価方法  
1) 技術評価  
「第2 業務仕様書」の別紙評価表の項目ごとに、各項目に記載された配点を上限として、以下の基準により評価（**小数点以下第三位を四捨五入します**）し、合計点を技術評価点とします。

当該項目の評価	評価点
当該項目については極めて優れており、高い付加価値がある業務の履行が期待できるレベルにある。	90%以上
当該項目については優れており、適切な業務の履行が十分期待できるレベルにある。	80%

当該項目については一般的な水準に達しており、業務の履行が十分できるレベルにある。	70%
当該項目については必ずしも一般的なレベルに達していないが、業務の履行は可能と判断されるレベルにある。	60%
当該項目だけで判断した場合、業務の適切な履行が困難であると判断されるレベルにある。	50%未満

なお、技術評価点が50%、つまり200点満点中100点（「基準点」という。）を下回る場合を不合格とします。不合格となった場合は、「10. 技術提案書の評価結果の通知」に記載の手続きに基づき、不合格であることが通知され、入札会には参加できません。

## 2) 価格評価

価格評価点については以下の評価方式により算出します。算出に当たっては、**小数点以下第三位を四捨五入します。**

$$\text{価格評価点} = (\text{予定価格} - \text{入札価格}) / \text{予定価格} \times (100 \text{点})$$

## 3) 総合評価

技術評価点と価格評価点を合計した値を総合評価点とします。

## (4) 落札者の決定

機構が設定した予定価格を超えない入札価格を応札した者のうち、総合評価点が最も高い者を落札者とします。なお、落札者となるべき総合評価点の者が2者以上あるときは、抽選により落札者を決定します。

なお、本来予定価格は消費税等を含みますが、本書に記載の「予定価格」は、本来の予定価格から消費税等額分を除いた金額＝「本体価格」を示しています。

## (5) 落札者と宣言された者の失格

入札会において上述の落札者の決定方法に基づき落札者と宣言された者について、入札会の後に、以下の条件に当てはまると判断された場合は、当該落札者を失格とし、改めて落札者を確定します。

- 1) その者が提出した技術提案書に不備が発見され、上述の9. に基づき「無効」と判断された場合
- 2) その者が提出した入札書に不備が発見され、13. に基づき「無効」と判断された場合
- 3) 入札金額が著しく低い等、当該応札者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがある著しく不相当であると認められる場合

## 15. 入札執行（入札会）手順等

入札会の状況は入札者に Microsoft Teams（それが困難な場合には電話も可とします）で中継します。入札経過や入札結果、再入札の有無等については中継の際に入札者と情報共有しますので入札者は必ず参加ください。<sup>2</sup>

なお、Microsoft Teams を接続する者には、競争参加資格確認申請時のメール本文に記載されたメールアドレス宛てに機構から会議招集を入札会の前日 16 時（前日が休祝日の場合には 1 営業日前）までにメールで連絡します。

### （1）入札会の手順

#### 1）機構の入札立ち会い者の確認

2）入札会開始時間の 5 分前から、会議招集した Microsoft Teams に接続可能となりますので接続を開始してください。また、電話で中継する者に対しては機構から電話連絡します。なお、入札開始時間になっても接続できない、電話がかかってこない（もしくは途中で切れた）などの場合には、「4. 担当部署等」に記載した番号に電話連絡ください。

3）入札開始時間から 10 分の間に提出済の入札書（要押印、以下同じ）のパスワードを送付ください（別紙「手続・締切日時一覧」をご覧ください）。

4）入札開始時間から 5 分経過した時点でパスワード送付がない入札者には Microsoft Teams もしくは電話でその旨を伝えます。なお、Microsoft Teams もしくは電話で参加しなかった入札者についても 10 分までの間にパスワードの送付があれば受理し入札参加を認めます。

#### 5）技術評価点の発表

入札開始時間から 10 分を経過した時点でパスワードの受理を締切り、入札事務担当者が、入札者の技術評価点を発表します。

#### 6）開札及び入札書の内容確認

入札事務担当者が既に提出されている入札書（パスワード付き PDF）を入札会時に入札者から提出されるパスワードを用いて開封し、入札書の記載内容を確認します。

#### 7）入札金額の発表

入札事務担当者が各応札者の入札金額を読み上げます。

#### 8）予定価格の開封及び入札書との照合

入札執行者が、あらかじめ開札場所に置いておいた予定価格を開封し、入札金額と照合します。

#### 9）落札者の発表等

入札執行者が予定価格を超えない全入札者を対象に、「14. 落札者の決定方法」に記載する方法で総合評価点を算出し、読み上げます。結果、総合評価点が一番高い者を「落札者」として宣言します。

価格点、総合評価点を算出しなくとも落札者が決定できる場合または予定価格の制限に達した価格の入札がない場合（不調）は、入札執行者が「落札」または「不調」を発表します。

---

<sup>2</sup> ただし、Microsoft Teams、電話はあくまでも入札会の中継という補助手段ですので、不参加の場合でも入札書のパスワードや再入札の提出が指定時間内にあった場合には入札参加を認めます。

#### 10) 再度入札（再入札）

「不調」の場合には引き続き再入札を行います。Microsoft Teams もしくは電話で参加しなかった入札者に対しては、競争参加資格申請時のメール本文に記載されたメールアドレス宛に再入札の案内をします。再入札書（要押印）、委任状（入札書の記名が代表者でない場合、要押印）を電話会議で指定した時間までに送付してください。なお、再入札書はパスワードを付した PDF をメールで送付頂きますが、初回と同じパスワードとしてください（パスワードが毎回自動生成される場合にはこの限りではありません）。再入札を2回（つまり初回と合わせて合計3回）行います。再入札を行っても落札者がいないときは、入札を打ち切ります。

#### (2) 再入札の辞退

「不調」の結果に伴い、入札会開催中に再入札を辞退する場合は、次のように入札書金額欄に「入札金額」の代りに「辞退」と記載し、入札箱に投函してください。

金			辞				退			円
---	--	--	---	--	--	--	---	--	--	---

#### (3) 入札者の失格

入札会において、入札執行者による入札の執行を妨害した者、その他入札執行者の指示に従わなかった者は失格とします。

#### (4) 不落随意契約

入札が成立しなかった場合、随意契約の交渉に応じて頂く場合があります。

### 16. 入札金額内訳書の提出、契約書作成及び締結

(1) 落札者からは、入札金額の内訳書（社印不要）の提出を頂きます。

(2) 「第5 契約書（案）」に基づき、速やかに契約書を作成し、締結します。契約保証金は免除します。

(3) 契約条件、条文については、「第5 契約書（案）」を参照してください。なお契約書（案）の文言に質問等がある場合は、「8. 入札説明書に対する質問」の際に併せて照会してください。

(4) 契約書附属書Ⅱ「契約金額内訳書」については、入札金額の内訳書等の文書に基づき、両者協議・確認して設定します。

### 17. 競争・契約情報の公表

本競争の結果及び競争に基づき締結される契約については、機構ウェブサイト上に契約関連情報（契約の相手方、契約金額等）を公表しています。また、一定の関係を有する法人との契約や関連公益法人等については、以下の通り追加情報を公表します。詳細はウェブサイト「公共調達適正化に係る契約情報の公表について」を参照願います。

(URL: <https://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/corporate.html>)

競争への参加及び契約の締結をもって、本件公表に同意されたものとみなさせていただきます。

(1) 一定の関係を有する法人との契約に関する追加情報の公表

1) 公表の対象となる契約相手方取引先

次のいずれにも該当する契約相手方を対象とします。

- a) 当該契約の締結日において、当機構の役員経験者が再就職していること、又は当機構の課長相当職以上経験者が役員等として再就職していること
- b) 当機構との間の取引高が、総売上又は事業収入の3分の1以上を占めていること

2) 公表する情報

- a) 対象となる再就職者の氏名、職名及び当機構における最終職名
- b) 直近3か年の財務諸表における当機構との間の取引高
- c) 総売上高又は事業収入に占める当機構との間の取引高の割合
- d) 一者応札又は応募である場合はその旨

3) 情報の提供方法

契約締結日から1ヶ月以内に、所定の様式にて必要な情報を提供頂きます。

(2) 関連公益法人等にかかる情報の公表

契約の相手方が「独立行政法人会計基準」第13章第6節に規定する関連公益法人等に該当する場合には、同基準第13章第7節の規定される情報が、機構の財務諸表の付属明細書に掲載され一般に公表されます。

## 18. その他

- (1) 機構が配布・貸与した資料・提供した情報（口頭によるものを含む）は、本件業務の技術提案書及び入札書を作成するためのみに使用することとし、複写または他の目的のために転用等使用しないでください。
- (2) 技術提案書等は、本件業務の落札者を決定する目的以外に使用しません。
- (3) 落札者の技術提案書等については返却いたしません。また、落札者以外の技術提案書電子データについては、機構が責任をもって削除します。なお、機構は、落札者以外の技術提案書等にて提案された計画、手法について、同提案書作成者に無断で使用いたしません。
- (4) 技術審査で不合格となり入札会へ進めなかった者の事前提出済み入札書の電子データ（PDFのパスワードがないので機構では開封できません）は機構が責任をもって削除します。
- (5) 技術提案書等に含まれる個人情報等については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第59号）」に従い、適切に管理し取り扱います。
- (6) 競争参加資格がないと認められた者、技術提案書の審査の結果不合格の通知を受けた者は通知日から2週間以内、入札会で落札に至らなかった者は入札執行日から2週間以内に、その理由や技術評価の内容について説明を求められますので、ご要望があれば「4. 担当部署等（1）書類等の提出先」までご連絡ください。
- (7) 辞退理由書  
当機構では、競争参加資格有の確認通知を受けた後に技術提案書を提出されな

かった者に対し、メール添付のPDFで辞退理由書の提出をお願いしております。辞退理由書は、当機構が公的機関として競争性の向上や業務の質の改善につなげていくために、内部資料として活用させていただくものです。つきましては、ご多忙とは存じますが、ご協力の程お願い申し上げます。

なお、内容につきまして、個別に照会させて戴くこともありますので、予めご了承ください。また、本辞退理由書にお答えいただくことによる不利益等は一切ありません。本辞退理由書は今後の契約の改善に役立てることを目的としているもので、その目的以外には使用いたしませんので、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。辞退理由書の様式は、様式集のとおりです。

## 手続・締切日時一覧(20a00845)

公告日 2021/2/17

メール送付先

e\_sanka@jica.go.jp

No.	入札説明書該当箇所	授受方法	提出期限、該当期間	メール件名	備考
1	入札説明書に対する質問の提出	メール	公告日から2021年2月24日（水）正午まで	【質問】（調達管理番号）_（法人名）_入札説明書	-
2	質問に対する機構からの回答掲載	メール	2021年3月1日（月） 16時以降	-	機構がHPに掲載。但し、質問がない場合は、掲載はありません。
3	競争参加資格申請書・下見積書の提出	メール	2021年3月4日（木）正午まで	【提出】（調達管理番号）_（法人名）_競争参加申請書・下見積書	メール本文に入札会のMicrosoft Teams会議招集で使用するメールアドレス、それが困難な場合には入札会で連絡可能な電話番号を記載ください。
4	競争参加資格申請書・下見積書のパスワードの提出	メール	同上	【PW】（調達管理番号）_（法人名）_競争参加申請書・下見積書	-
5	競争参加資格確認結果の通知	メール	2021年3月9日（火）まで	-	機構から通知します。
6	技術提案書・入札書のGIGAPODフォルダ作成依頼	メール	提出期限の4営業日～1営業日前の正午まで	【作成依頼】技術提案書・入札書提出用フォルダ_（調達管理番号）_（法人名）	-
7	技術提案書・入札書の提出	GIGAPOD	2021年3月18日（木）正午まで	-	電子提出方法のご案内のとおりです。
8	技術提案書・入札書の格納完了の連絡	メール	同上	【格納完了】（調達管理番号）_（法人名）_技術提案書・入札書	-
9	技術提案書のパスワードの提出	メール	同上	【PW】（調達管理番号）_（法人名）_技術提案書	入札書のPWは、入札会まで送付厳禁です。
10	技術提案書の審査結果の通知	メール	2021年3月25日（木）まで	-	-
11	入札執行（入札会）の日時及び場所等	-	2021年3月30日（火）14時	-	-
12	Microsoft Teams/電話の接続開始	Teams/電話	2021年3月30日（火）13時50分～入札会開始時間	-	入札開始時間になってもMicrosoft Teamsに接続できない、電話会議希望者で機構から電話がない場合には機構に連絡ください。
13	入札書のパスワードの提出	メール	2021年3月30日（火）14時00分～14時10分	【PW】（調達管理番号）_（法人名）_入札書	入札会開始時間～10分間となります。

## 第2 業務仕様書

この業務仕様書は、独立行政法人国際協力機構（以下、「JICA」または「発注者」という。）が実施するプロジェクト研究「総合防災関連研修内容の検討」に関する業務の内容を示すものである。本件受注者は、この業務仕様書に基づき本件業務を実施する。

### 1 業務の背景

JICA はこれまで5つの地域（アジア対象、中南米対象、中央アジア・コーカサス対象、アフリカ対象、島しょ国対象）を対象に「総合防災」課題別研修を実施してきた（別紙：総合防災研修概略表）が、「総合防災」の一般的な定義はなく、各コースの明確な方針設定が困難であった。結果として研修の効果的な構造化ができていないまま、内容に統一感の欠けた5コースがばらつきのある成果レベルで実施される傾向があった。こうした状況の中で仙台防災枠組（2015－2030）も踏まえ、「総合防災」課題別研修における方針を明確化し、その方針に沿った研修の全体像の検討と講義先・視察先の選定が急務になっている。

今般、JICA 地球環境部防災グループでは、「総合防災」課題別研修における方針を「災害リスク削減のための事前防災投資実施能力強化並びに地方防災計画策定とその実行手法取得研修」と定義した。災害リスク削減のための事前防災投資実現に主軸を置き、仙台防災枠組グローバルターゲット達成において他のターゲット達成の基礎となるターゲット（e）（2020年までに国・地方防災計画が策定される国の数を大幅に増やす）にも引き続き焦点を当て、地方防災計画策定に係る情報や策定方法を広め、その計画実行促進にも資する研修としていく意図である。また、その内容検討にあたっては以下の点を軸とすることとした：

- 地方防災計画策定・実行に係る情報や策定方法を広める手段として、地方防災計画策定・実行のための8ステップ<sup>3</sup>を軸に実施していくこととし、8ステップのステップごとに伝えるべき内容・講義・視察先を整理の上、それを積み上げた研修構成を基本とする。8ステップには予算取り（ステップ7）や計画実行・モニタリング・改訂（ステップ8）に見られるように実行に係るステップも含まれるが、これまでこれらのステップに対応する講義・視察先の選定がとりわけ弱かったため、これらのステップをより意識する。また、対策工の選定（ステップ5）においてはその国における経済被害削減を目指し、より一層、その国における資産集積地域における災害リスク削減の視点の強調が必要であると考ええる。
- 地方防災計画策定・実行の前段として把握しておくべき「防災総論」（防災国際潮流、計画理解にとどまらないこれまでの国家・広域レベルの災害リスク

<sup>3</sup> 8ステップ：JICAが考案した、地方防災計画策定ガイド。このステップに従うことにより、リスク削減に向けた投資計画に資する地方防災計画を策定し、実行の基礎とすることができる。

[https://www.jica.go.jp/information/seminar/2018/20190306\\_02.html](https://www.jica.go.jp/information/seminar/2018/20190306_02.html)

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/disaster/ku57pq00001p03o3-att/8steps.pdf>



削減の履歴実態に基づく可能性と限界、将来リスクの現実的な予測視点、強靱化に向かう際の取組み優先事項を示したレジリエンスの階層構造などに関する普遍的な理解)についても含めることとする。

- これまでの研修では事前防災投資実現に係る視点が弱く、JICA や研修受注機関が把握している講義・視察先のリソースも少なかったため、結果としてリソース確保ができていた災害対応フェーズやソフト分野での事前準備に係る講義・視察の比重が多かったという傾向があるが、今後は事前防災投資実現を念頭に置きリソース開拓を進める。また、ハード系の視察においても構造物の説明のみでなく、事前防災投資の視点を含めるように留意する。
- 対象者は防災機関、計画系省庁及び各国で主要な地方自治体の行政官を対象とする。
- 災害種は、洪水・土砂災害、地震、高潮・津波・火山とする。

については上記の整理に従った講義・視察先の検討が必要である。合わせて、上記対象地域によっては、予防防災投資の実施に限界がある地域もあるところ、そうした地域の選定および、そうした地域における研修目的、講義、視察先の選定が必要である。

また、研修モジュール検討の際にベースとなる地方防災計画策定・実行のための 8 ステップについては、作成から 3 年ほど経ち、研修や技術協力プロジェクト内での演習実施時の途上国からの演習参加者の意見や演習アウトプットも踏まえ、より計画実行・事前防災投資に結びつく内容に更新が必要である。さらに、対象地域選定においては、その国における資産集積地における計画策定並びに事前防災投資実施の優先度が高いが、現状としては資産集積地でない場所を選定する研修員も多く、資産集積地における計画策定・事前防災投資実施を誘導できる内容にする必要がある。

加えて、災害種によっても各ステップにおける考慮次項が変わってくるため、洪水版、津波・高潮版、地震版の作成を行い、それらに基づいた研修内容検討の必要性がある。

## 2 業務の目的

本業務を通じ、新たに整理された「総合防災」課題別研修の方針に則り研修モジュール化を行い、講義・視察先リストが整理・整備されることで、それぞれの地域や年度に合わせた講義・視察先の選定や、講義・視察依頼先に対しての的確な講義・視察の意図伝達が可能となる。よって、研修員に的確に講義・視察の意図が伝わり、災害リスク削減のための事前防災投資の一助となることが期待される。

## 3 業務の期間

2021 年 4 月上旬～2021 年 11 月下旬

## 4 業務の内容

本業務において、受注者が実施する内容は次のとおりとする。

### 4-1 実施方針および留意事項

#### (1) 研究体制

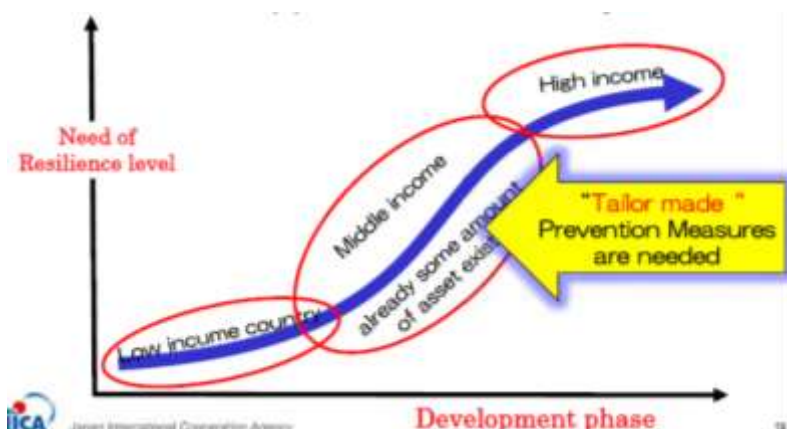
本業務の実施にあたっては、JICA 地球環境部防災グループへの承認を経て進めること。また、外部有識者へのヒアリングや、JICA との協議・サポートを通じた、遠隔での帰国研修員や JICA 防災長期専門家、過年度研修受託機関、JICA 防災プロジェクト業務従事者等へのヒアリングを実施することを可能とする。

#### (2) 調査研究手段

本業務では、地方防災計画策定・実行のための 8 ステップ自体の内容を精査・更新のうえ、8 ステップの各ステップや「防災総論」における要点を整理しそれに基づいた講義・視察先を整理・提案する。また、その中でも中核となる講義についてまとめ、そのうちの幾つかにおいては JICA 地球環境部防災グループとの協議を経て遠隔教材を作成する。講義・視察先整理においては帰国研修員からのアンケートや、外部有識者、JICA 直営防災長期専門家、過年度研修受託機関、JICA 防災プロジェクト業務実施コンサルタント等からもヒアリングし、幅広い意見を得るとともに、過去の研修日程表もレビューのうえ、上記背景に記載の方針と照らし合わせて良い点と改善点の分析も行うことを想定する。

リストアップされた講義・視察先についてはそれぞれの講義・視察先における要点についても整理し、今後講義・視察先に依頼する際に明確に講義・視察の意図が伝わるようにする。

事前防災投資の実施に限界がある地域の選定にあたっては、以下に示す国の発展度カーブに基づいて検討すること。



(出典：JICA 地球環境部防災グループ)

## 4-2 業務内容

以下に JICA の想定する業務の流れを記載するが、応札者はより効果的、効率的に本業務の目的を達成する方法があれば、技術提案書にて提案すること。

### (1) 調査項目・方針の整理【2021年4月上旬】【国内5人日】

#### ① 業務計画書（案）の修正と提出（2021年4月上旬）

JICA 地球環境部防災グループとの事前打ち合わせを経て、技術提案書で提案した事項等を業務計画書（案）として最終化し、電子データにて提出する。業務計画書（案）の構成は以下表1の通り。

表1 業務計画書（案）の構成

<p>想定する成果品に対する内容分析・整理 実施時の視点／項目 案</p>	<p>(a)「防災総論」ならびに8ステップの各ステップにおける講義・視察内容要点 (b)総合防災研修講義・視察ロングリスト（洪水・土砂災害、地震、高潮・津波、火山） (c)総合防災研修講義・視察コアリスト（中核となる講義・視察先を示したリスト） (d)研修単元目標更新版 (e)予防防災投資に限界がある地域に対する講義・視察リスト (f)8ステップ研修解説書付きスタンダードコンテンツ（専門家、コンサルタント、帰国研修員用） (g)8ステップパンフレット洪水版、津波・高潮版、地震版</p>
<p>実施方針・活動計画</p>	<p>調査手法（ヒアリング調査、過去の研修資料、その他提案する手法） 調査工程（フローチャート）</p>

### (2) 各種8ステップ整理【2021年4月上旬～4月下旬】【国内63人日】

- ① 洪水、津波・高潮、地震版8ステップの内容を精査のうえ、更新する。
- ② 8ステップ研修を技術協力プロジェクトで専門家やコンサルタントが活用できるよう、また、8ステップ研修を受けた研修員が自国で普及活動のために活用できる、解説付き演習実施説明書を作成する。

### (3) 「総合防災」課題別研修講義・視察先ロングリスト作成【2021年4月中旬～2021年6月中旬】【国内70人日】

- ① 防災総論及び8ステップの各ステップにおける要点整理（2021年4月中旬）  
上記（1）（2）で整理した事項に基づき、研修にて伝えるべき要点を整理する。  
現時点で考えられる方向性を表2に示すが、研究内にて検討し JICA と協議すること。
- ② 上記要点に合致する講義内容、視察先、リソースロングリストの作成（2021年4月下旬～2021年6月上旬）

上記（３）①で整理されたそれぞれの事項について、適切な講義内容、視察先、リソースを検討し、ロングリストとしてまとめる。過去の研修日程、講義・視察資料、研修員アンケート（研修終了時、帰国後）、反省会資料等から講義・視察の分析を行い、８ステップに当てはまるか、並びにそれぞれの講義・視察において良い点、足りない点の洗い出しを行う。

現在の日程表において使えるが、改善が必要な講義・視察先について、改善点を検討し取り纏める。

講義・視察先検討においては帰国研修員や当該研修受入れ機関、JICA 直営防災長期専門家、JICA 専門員、業務実施コンサルタントなどからもヒアリングし、幅広い意見を得た上で検討する。

各視察先、リソースに関しては、リストアップされた背景（重要な点、見るべき点）を明確にする。

### ③ 中間業務報告書の提出（2021年6月中旬）

上記（２）及び（３）①②で整理した内容についてまとめ、成果品の骨子を示したものを中間業務報告書として JICA に提出する。その際、表 1 にある（３）、（４）、（５）、（８）の事項についても業務計画書から方針を更新の上示すこと。

## （４）講義・視察先コアリストと研修単元目標の設定【2021年6月中旬～7月中旬】 【国内5人日】

### ① 講義・視察先コアリストの作成

上記（３）までの分析も踏まえた上で、防災総論及び８ステップ各ステップで中核となる講義・視察内容を検討のうえ、コアリスト（全地域における研修、毎年度実施する講義・視察先を示したもの）を作成する。

### ② 研修単元目標の設定

上記（４）①までの結果を踏まえ、適切な研修単元目標を設定する。

## （５）予防防災投資の実施に限界がある地域の選定と研修目的、講義・視察先リストの作成【2021年7月中旬～8月下旬】 【国内37人日】

① 予防防災投資の実施に限界がある地域を選定する。その際、JICA から提供する国の発展度合い S カーブ（上記、「4-1 実施方針および留意事項、（２）調査研究手段に記載）をベースとして検討する。

### ② 当該地域における研修目的の設定

上記（５）①で選定した地域における研修目的を設定する。

### ③ 講義・視察先リストの作成

上記（５）②にて設定した目的に沿って講義・視察先リストを作成する。その際、過去の研修日程、過去の講義・視察資料、研修員アンケート、反省会資料等も参考とする。

(6) 業務完了報告書の作成・提出【2021年8月下旬～2021年10月下旬】

【国内20人日】

① 最終成果品の作成（2021年8月下旬～2021年10月下旬）

上記（2）～（5）で検討、整理、作成した資料を添付した業務完了報告書（案）を作成し、JICA本部向けに報告会を開催する。受注者は同会議の日程調整を行い、JICAに日程を報告する。

② 最終成果品の提出（2021年10月下旬）

上記（6）①の報告会でのコメントを反映し、業務完了報告書の最終版を提出する。

表2 要点整理方針（案）

	要点案
防災総論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災国際潮流</li> <li>・ 行政の役割</li> <li>・ 国と地方の役割</li> <li>・ ハザードとリスクの関係性</li> <li>・ レジリエンスとは</li> <li>・ 政策誘導</li> <li>・ それぞれの災害種におけるハザード種類と防災対策のバリエーション</li> <li>・ 計画理解にとどまらないこれまでの国家・広域レベルの災害リスク削減の履歴実態に基づく可能性と限界</li> <li>・ 将来リスクの現実的な予測視点</li> <li>・ 強靱化に向かう際の取組み優先事項を示したレジリエンスの階層構造などに関する普遍的な理解</li> </ul>
8ステップ全体	<p>根本的な事前防災投資実現を見据え、より中央政府と地方政府の役割を考慮した内容とする。</p> <p>中央政府の役割：国レベルでの事業実施                      地方政府の役割：国レベルでの事業実施実現に係るプレッシャーかけ、履行モニタリング、現場でのリスク理解、現場でのリスクに基づく国レベルで実施すべき事業に係る陳情、地方レベルでの事業実施</p>
ステップ1ハザード情報収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハザード概念、</li> <li>・ ハザード情報収集方法</li> <li>・ ハザード情報が不足する場合のハザード収集方法</li> </ul>
ステップ2リスク理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リスク概念</li> <li>・ リスク把握方法</li> <li>・ 将来のリスクの把握</li> <li>・ 開発計画の確認</li> </ul>
ステップ3国家や関連機関計画確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連プロジェクト／プロジェクト計画との関係性</li> <li>・ 災害リスク削減に係る関係者確認の重要性</li> </ul>

ステップ4 残余リスク把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 残余リスク概念</li> <li>・ リスク削減プロセス理解</li> <li>・ 残余リスクの確認</li> </ul>
ステップ5 災害対策手法検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 残余リスクと災害対策の関係性</li> <li>・ 災害対策検討方法</li> <li>・ 災害対策実施担当機関検討</li> <li>・ 国レベルで対応すべき事項に対する対応</li> </ul>
ステップ6 災害対策手法優先順位付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害対策手法選定クライテリア設定方法</li> <li>・ 災害対策手法選定方法</li> <li>・ 災害対策手法組合せ方法</li> <li>・ 関係者間調整</li> </ul>
ステップ7 予算調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係者間調整</li> <li>・ 予算確保方法</li> <li>・ 関係機関ネゴシエーション</li> </ul>
ステップ8 計画実行・モニタリング・計画改訂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画実行プロセス</li> <li>・ 計画実行調整</li> <li>・ モニタリング方法設定</li> <li>・ 計画改訂方針設定と実行</li> </ul>

## 5 成果品等

業務の各段階で作成・提出する報告書等は以下のとおり。このうち業務完了報告書を最終成果品とする。なお、業務完了報告書の仕様は、「コンサルタント等契約における報告書の印刷・電子媒体に関するガイドライン」に基づくものとし、各成果品において、電子データも併せて提出のこと。

### (1) 業務計画書

- ①概要・記載項目：想定する成果品に対する内容分析・整理時の視点／項目案、実施方針・活動計画
- ②提出時期：2021年4月上旬
- ③分量：A4 20ページ程度
- ④提出方法：電子データ
- ⑤作成言語 和文
- ⑥様式：任意

### (2) 月次報告書

- ①概要・記載項目：従事計画実績比較表
- ②提出時期：毎月末から1週間以内
- ③分量：別途指定する様式に基づき作成
- ④提出方法：正1部、電子データ
- ⑤作成言語 和文

### (3) 業務中間報告書

- ①概要・記載項目：上記表 1 (a)、(b)、(f)、(g) 成果品 (案)、(c)、(d)、(e) 成果品  
骨子・作業方針 (更新版)、従事計画実績比較表
- ②提出時期：2021 年 6 月中旬
- ③分量：A4 50 ページ程度
- ④提出方法：電子データ
- ⑤作成言語 和文
- ⑥様式：任意

### (4) 業務完了報告書

- ①概要・記載項目：従事計画実績比較表
  - ②提出時期：2021 年 10 月下旬
  - ③分量：A4 90 ページ程度
  - ④提出方法：正 1 部、CR-R 1 枚
  - ⑤作成言語 和文
  - ⑥様式：任意
  - ⑦添付資料：上記 4. 4-2 業務内容で収集・分析した内容を添付する。分量は以下を目安とする。
    - (a) 防災総論ならびに 8 ステップの各ステップにおける講義・視察内容要点 A4 15 ページ程度
    - (b) 総合防災研修講義・視察ログリスト (洪水・土砂災害、地震、高潮・津波、火山を含む) A4 20 ページ程度
    - (c) 総合防災研修講義・視察コアリスト A4 10 ページ程度
    - (d) 研修単元目標更新版 A4 1 ページ程度
    - (e) 予防防災投資に限界がある地域に対する目的、講義・視察先 A4 10 ページ程度
    - (f) 8 ステップ研修解説書付きスタンダードコンテンツ (専門家、コンサルタント、帰国研修員用) A4 15 ページ程度
    - (g) 8 ステップパンフレット洪水版、津波・高潮版、地震版 A4 15 ページ程度
- ※全てについて編集可能な形式で提出すること (ワード、エクセル、パワーポイント) と PDF の両バージョンを提出のこと)。
- ※分量はあくまで想定する目安であり、調査結果等により情報量次第で増減の可能性もあります。特に成果品のページ数増による「業務の報酬」の増額は行わないので、入札金額の積算の際は、留意すること

## 6 受注者等の条件

- (1) 共同企業体の結成 : 可
- (2) 再委託 : 不可

## 7 業務従事者の担当分野・要員配置・業務量の目途

本件の実施にあたって以下の要員を想定している。以下の構成・人日は現時点での想定であり、本件の業務内容・工程を踏まえ、最適な要員配置を検討すること。ただし、人日の合計は200人日を上限とする。海外業務は想定していない。なお各業務は、複数人での従事も可とする。

- (1) 業務総括者／地方防災計画
- (2) ハザード・リスク分析（ステップ1, 2, 4）
- (3) 行政間調整（ステップ3）
- (4) 対策選定（ステップ5, 6）
- (5) 予算化（ステップ7）
- (6) モニタリング（ステップ8）
- (7) 研修計画

	担当者(人日)									合計 人日
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月		
(1)調査項目・方針の整理【2021年4月下旬～5月上旬】【国内5人日】										5
(2)各種8ステップ整理【2021年5月上旬～2021年5月下旬】【国内63人日】										63
(3)「総合防災」課題別研修講義・視察先ロングリスト作成【2021年5月中旬～2021年7月中旬】【国内70人日】										70
(4)講義・視察先コアリストと研修単元目標の設定【2021年7月中旬～8月中旬】【国内5人日】										5
(5)予防防災投資の実施に限界がある地域の選定と研修目的、講義・視察先リストの作成【2021年8月中旬～9月下旬】【国内37人日】										37
(6)業務完了報告書の作成・提出【2021年9月下旬～2021年11月下旬】 【国内20人日】										20
<b>合計</b>		<b>業務計 画書</b>		<b>中間報 告書</b>					<b>最終成 果品</b>	<b>200</b>

## 8 支払条件

### 部分確定払い

精算は部分払い及び確定払いとし、確定払いの際は業務完了報告書とともに、経費精算報告書を提出し、JICAによる検査結果通知に基づき請求書を発行すること。また、資料購入費についても、当該期間中の実績に応じて、精算・支払うこととする。

以上

別紙：該当研修一覧表



別紙

実施年度	研修コース名	人数	国名	受入先 主要研修機関
2007	中央アジア・コーカサス地域防災行政	17	トルクメニスタン、ウズベキスタン、アルメニア、カザフスタン、タジキスタン、キルギス、アゼルバイジャン、ジョージア	(財)都市防災研究所 アジア防災センター
	中米地域防災対策	12	コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、パナマ	(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター
	総合防災行政	17	ブータン、タイ、インドネシア、モンゴル、ウルグアイ、オーストリア、トンガ、エルサルバドル、パキスタン、コスタリカ、ホンジュラス、アンティグア・バーブーダ、ハイチ、ペルー	(財)都市防災研究所 アジア防災センター
2008	中央アジア・コーカサス地域防災行政	11	カザフスタン、タジキスタン、ウズベキスタン、ネパール、アルメニア	(財)都市防災研究所 アジア防災センター
	中米防災対策	12	コスタリカ、エルサルバドル、パナマ、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、パナマ	(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター
	総合防災行政	17	バングラデシュ、中国、コスタリカ、エルサルバドル、ハイチ、ホンジュラス、パキスタン、タイ、トンガ、ペルー	(財)都市防災研究所 アジア防災センター
2009	中央アジア・コーカサス地域防災行政	12	アルメニア、アゼルバイジャン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン	(財)都市防災研究所 アジア防災センター
	中米防災対策	14	コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ニカラグア、パナマ	(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター
	総合防災行政	17	ブータン、中国、コスタリカ、エルサルバドル、グatemala、ハイチ、パキスタン、フィリピン、タイ、マダニドニア、旧ユーゴスラビア共和国、トンガ、ウガンダ、ベトナム	(財)都市防災研究所 アジア防災センター
2010	中央アジア・コーカサス地域防災行政	8	アルメニア、グルジア、カザフスタン、タジキスタン、ウズベキスタン	(財)都市防災研究所 アジア防災センター
	中米防災対策	13	コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ニカラグア、パナマ	(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター
	総合防災行政	18	ブラジル、中国、フィジー、ハイチ、ジャマイカ、ミャンマー、インドネシア、フィリピン、ソロモン諸島、トンガ、トリニダード・トバゴ、タイ	(財)都市防災研究所 アジア防災センター
2011	中央アジア・コーカサス地域総合防災行政	13	アルメニア、カザフスタン、タジキスタン、ウズベキスタン	(財)都市防災研究所 アジア防災センター
	中米防災対策	9	コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス	(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター
	総合防災行政	13	ブラジル、中国、フィジー、ハイチ、インドネシア、ジャマイカ、ミャンマー、フィリピン、ソロモン諸島、トンガ	(財)都市防災研究所 アジア防災センター
2012	中央アジア・コーカサス地域総合防災行政	9	アルメニア、カザフスタン、タジキスタン、ウズベキスタン、アゼルバイジャン、キルギス	(財)都市防災研究所 アジア防災センター
	中米防災対策	14	コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、パナマ	(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター
	総合防災行政	18	中国、フィジー、ハイチ、インドネシア、ジャマイカ、モーリシャス、ミャンマー、フィリピン、ソロモン諸島、パレスチナ	(財)都市防災研究所 アジア防災センター
2013	中央アジア・コーカサス地域総合防災行政	13	アルメニア、アゼルバイジャン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン	(財)都市防災研究所 アジア防災センター
	総合防災行政(A)	14	アフガニスタン、フィジー、ミャンマー、ネパール、フィリピン、バングラ、イエメン、タンザニア	(一財)都市防災研究所 アジア防災センター
	中米防災対策	12	コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、パナマ	(株)シー・ディ・シー・インターナショナル
2014	中央アジア・コーカサス地域総合防災行政	13	アルメニア、アゼルバイジャン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン	(一財)都市防災研究所 アジア防災センター
	総合防災行政(A)	18	ブータン、フィリピン、マダニドニア、旧ユーゴスラビア共和国、インドネシア、ミャンマー、フィリピン、ソロモン諸島、フィリピン、タジキスタン、キューバ、モルディブ	(一財)都市防災研究所 アジア防災センター
	中米防災対策	13	コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、パナマ、キューバ	(株)シー・ディ・シー・インターナショナル
2015	中央アジア・コーカサス地域総合防災行政	16	アルメニア、アゼルバイジャン、カザフスタン、ウズベキスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン	(一財)都市防災研究所 アジア防災センター
	アフリカ地域総合災害対策	13	ケニア、南アフリカ、南スーダン、モザンビーク、アルジェリア	(大)国立大学法人神戸大学 自然科学系基礎総合研究機構 都市安全研究センター
	中米防災対策	12	コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、パナマ	(株)シー・ディ・シー・インターナショナル
2016	総合防災行政(A)	13	アフガニスタン、アルメニア、バングラデシュ、ブータン、ミャンマー、パキスタン、フィリピン、東ティモール	(一財)都市防災研究所 アジア防災センター
	中央アジア・コーカサス総合防災行政	14	アルメニア、カザフスタン、キルギス、ウズベキスタン、タジキスタン、トルクメニスタン	(一財)都市防災研究所 アジア防災センター
	アフリカ地域総合災害対策	11	アルジェリア、カーボベルデ、ケニア、モーリシャス、モザンビーク	(大)国立大学法人神戸大学 自然科学系基礎総合研究機構 都市安全研究センター
2017	総合防災行政(C)	7	ブラジル	(一財)都市防災研究所 アジア防災センター
	総合防災行政(A)	15	アフガニスタン、アルゼンチン、ブータン、コロンビア、インドネシア、リベリア、モルディブ、モンゴル、南スーダン、ネパール、パキスタン、フィリピン、マダニドニア、旧ユーゴスラビア共和国、ベトナム	(一財)都市防災研究所 アジア防災センター
	中米防災対策	12	コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、パナマ	(公財)神戸国際協力交流センター
2018	中央アジア・コーカサス総合防災行政	8	アルメニア、カザフスタン、キルギス共和国、タジキスタン	アジア防災センター
	総合防災行政(A)	9	ブラジル	特定非営利活動法人SEEDS Asia
	アフリカ地域総合災害対策	11	ガーナ、リベリア、マラウイ、マリ、モロッコ、モザンビーク、ジンバブエ、アルジェリア	神戸大学都市安全研究センター
2019	中米防災対策	11	コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、パナマ	公益財団法人神戸国際協力交流センター
	総合防災行政(B)	9	ブータン、チリ、イラク、ケニア、ミャンマー、パキスタン、ペルー、ベトナム、キューバ、コロンビア	アジア防災センター
	島嶼国総合防災	16	バハマ、フィジー、グレナダ、グアテマラ、インド、ジャマイカ、ミクロネシア、ニカラグア、パナマ、セントルシア、セントビンセント、セントクリストファー・ネイビス、セントルシア、セントビンセント	高知大学
2018	中央アジア・コーカサス総合防災行政	6	アルメニア、カザフスタン、キルギス共和国、タジキスタン、トルクメニスタン	アジア防災センター
	総合防災行政(B)	ブラジル	特定非営利活動法人多言語センターFACIL	
	総合防災行政(A) ※アフリカ地域総合防災対策と同実施	10	ハイチ、インドネシア、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、スリランカ、ベトナム、メキシコ	アジア防災センター
2019	アフリカ地域総合防災対策 ※総合防災行政(A)と同実施	10	コンゴ民主共和国、エジプト、ガーナ、ケニア、マダガスカル、マラウイ、モロッコ、南スーダン、カーボベルデ	アジア防災センター
	中米防災対策	12	コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、パナマ	(公財)神戸国際協力交流センター
	島嶼国総合防災	16	アフガニスタン、アルゼンチン、ブータン、コロンビア、インドネシア、リベリア、モルディブ、モンゴル、南スーダン、ネパール、パキスタン、フィリピン、マダニドニア、旧ユーゴスラビア共和国、ベトナム	高知大学
2019	中米総合防災行政	13	コスタリカ、グアテマラ、コスタリカ、コロンビア、ニカラグア、ペルー、メキシコ、エルサルバドル、ホンジュラス	公益財団法人神戸国際協力交流センター
	中央アジア・コーカサス総合防災行政	8	ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス共和国、タジキスタン、トルクメニスタン	一般財団法人都市防災研究所 アジア防災センター
	アフリカ総合防災行政	14	アルジェリア、エジプト、ガーナ、南スーダン、マラウイ、カーボベルデ、モロッコ	一般財団法人都市防災研究所 アジア防災センター
2019	総合防災行政	7	インド、エジプト、ネパール、バングラデシュ、ブラジル、ベトナム	一般財団法人都市防災研究所 アジア防災センター
	島嶼国総合防災	18	アンティグア・バーブーダ、ペルー、キューバ、ドミニカ、フィジー、グアテマラ、ジャマイカ、マルシャル、ミクロネシア、パナマ、パプアニューギニア、セントクリストファー・ネイビス、セントルシア、セントビンセント、トンガ、トリニダード・トバゴ	高知大学

### 第3 技術提案書の作成要領

技術提案書の作成にあたっては、「第2 業務仕様書」に明記されている内容等を技術提案書に十分に反映させることが必要となりますので、内容をよくご確認ください。

#### 1. 技術提案書の構成と様式

技術提案書の構成は以下のとおりです。

技術提案書に係る様式のうち、参考様式については機構ウェブサイトからダウンロードできます。ただし、あくまで参考様式としますので、応札者独自の様式を用いても結構です。

([https://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/op\\_tend\\_evaluation.html](https://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/op_tend_evaluation.html))

##### (1) 応札者の経験・能力等

###### ア. 類似業務の経験

① 類似業務の経験（一覧リスト）・・・・・・・・（参考：様式1（その1））

② 類似業務の経験（個別）・・・・・・・・（参考：様式1（その2））

イ. 資格・認証等・・・・・・・・（任意様式）

##### (2) 業務の実施方針等・・・・・・・・（任意様式）

ア. 業務実施の基本方針（留意点）・方法

イ. 業務実施体制（要員計画・バックアップ体制）

ウ. 業務実施スケジュール

##### (3) 業務従事者の経験・能力等

ア. 業務従事者の推薦理由・・・・・・・・（任意様式）

イ. 業務従事者の経験・能力等・・・・・・・・（参考：様式2（その1、2））

ウ. 特記すべき類似業務の経験・・・・・・・・（参考：様式2（その3））

#### 2. 技術提案書作成に係る要件・留意事項

本業務に係る技術提案書作成に際して留意頂くべき要件・事項について、以下のとおり整理します。

##### (1) 応札者の経験・能力等

自社が業務を受注した際に適切かつ円滑な業務が実施できることを証明するために参考となる、応札者の類似業務の経験、所有している資格等について、記載願います。

###### ア. 類似業務の経験

類似業務とは、業務の分野、サービスの種類、業務規模などにおいて、蓄積さ

れた経験等が当該業務の実施に際して活用できる業務を指します。類似業務の実績を「様式1(その1)」に記載ください。原則として、過去10年程度の実績を対象とし、最大でも10件以内としてください。

また、業務実績の中から、当該業務に最も類似すると思われる実績(3件以内)を選び、その業務内容(事業内容、サービスの種類、業務規模等)や類似点を「様式1(その2)」に記載ください。特に、何が当該業務の実施に有用なのかが分かるように簡潔に記述して下さい。

#### イ. 資格・認証等

以下の資格・認証を有している場合は、その証明書の写しを提出願います。

- 女性活躍推進法に基づく認定(えるぼし認定)
- 次世代育成支援対策推進法に基づく認定(くるみん認定またはプラチナくるみん認定)
- 青少年の雇用の促進等に関する法律に基づく認定(ユースエール認定)
- マネジメントに関する資格(ISO9001等)
- 個人情報保護に関する資格(プライバシーマーク等)
- 情報セキュリティに関する資格・認証(ISO27001/ISMS等)
- その他、本業務に関すると思われる資格・認証

#### (2) 業務の実施方針等

業務仕様書(特に「4-2 業務内容」に記載の各項目)に対する、応募者が提案する業務の基本方針、業務を実施するために用いようとしている方法や手法などについて記述して下さい。記述は、5ページ以内を目途としてください。

##### ア. 業務実施の基本方針(留意点)・方法

業務仕様書について内容を理解のうえ、本業務実施における基本方針及び業務実施方法につき提案願います。

##### イ. 業務実施体制(要員計画・バックアップ体制)

業務仕様書に記載の業務全体を、どのような実施(管理)体制(直接業務に携わる業務従事者のみならず、組織として若しくは組織の外部のバックアップ体制を含む)、要員計画(業務に必要な業務従事者数、その構成、資格要件等)等で実施するのか、提案願います。

##### ウ. 業務実施スケジュール

業務実施にあたっての作業工程をフローチャート・作業工程計画書等で作成願います。

#### (3) 業務従事者の経験・能力等

業務総括者の経験・能力等(類似業務の経験、実務経験及び学位、資格等)につい

て記述願います。

ア. 業務従事者の推薦理由

応募者が、業務従事者を推薦する理由を、400字以内で記載ください。

イ. 業務従事者の経験・能力等

以下の要領に従い、記載ください。

■「取得資格」は、担当業務に関連する取得資格について、その資格名、分野やレベル、取得年月日を記載するとともに、可能な限りその認定証の写しを添付して下さい。

■「学歴」は、最終学歴のみを記載ください。

■「外国語」は、英語の資格名を記載してください。また、保有する資格の種類、スコア、取得年を記載下さい。なお、認定証（取得スコアを含む）の写しがない場合には評価の対象となりません。

■「現職」は、現在の所属先の名称、所属先に採用された年月、部・課及び職位名を記載し、職務内容を1～2行で簡潔に記載して下さい。また、所属先の確認を行うため、雇用保険については、確認（受理）通知年月日、被保険者番号、事業所番号、事業所名略称を記載して下さい。

■「職歴」は、所属先を最近のものから時系列順に記載し、所属した主要会社・部・課名及び主な職務内容につき、簡潔に記載ください。

■「業務従事等経験」は、現職の直前の所属先から新しい順に、所属先の名称、所属した期間、部・課及び職位名を記載し、職務内容を1～2行で、簡潔に記載して下さい。

■「担当業務」については、各々の業務に従事した際の担当業務を正確に示すようにして下さい。

■「研修実績等」については、担当業務に関連する研修歴を記載し、可能な限りその認定書等の写しを添付願います。

■職歴、業務等従事経験が、「様式2（その1）」だけでは記載しきれない場合には、「様式2（その2）」に記入して下さい。

ウ. 特記すべき類似業務の経験

記載にあたっては、当該業務に類似すると考えられる業務経験の中から、業務総括者の業務内容として最も適切と考えられるものを3件まで選択し、類似する内容が具体的に分かるように、「様式2（その3）」に業務の背景と全体業務概要、担当事項及び当該業務との関連性について記載ください。

#### 4 資料の貸与・問い合わせ先

技術提案書作成に際し、以下の資料を配布する。

・8ステップ（洪水版、津波・高潮版、地震版）

- ・ 2019 年度研修 GI
- ・ 2019 年度研修日程表
- ・ 2019 年度総合防災帰国研修員アンケート

<問い合わせ先>

東京都千代田区二番町 5-25 二番町センタービル

独立行政法人 国際協力機構

地球環境部防災第二チーム 渡辺

E-mail アドレス : Watanabe.Kohei2@jica. go. jp

別紙 : 評価表 (評価項目一覧表)

評価表（評価項目一覧表）

評価項目	評価基準（視点）	配点
<b>1. 応募者の経験・能力等</b>		<b>30</b>
(1) 類似業務の経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 類似業務については実施件数のみならず、業務の分野（内容）と形態、発注業務との関連性に鑑み総合的に評価する。特に評価する類似案件としては、国内及び途上国での地方防災計画策定・実行、事前防災投資分野に関する各種業務とする。</li> <li>● 概ね過去10年までの類似案件を対象とし、より最近のものに対し高い評価を与える。</li> </ul>	25
(2) 資格・認証等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 以下の資格・認証を有している場合に評価する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マネジメントに関する資格（ISO9001等）</li> <li>・ 情報セキュリティに関する資格・認証（ISO27001/ISMS、プライバシーマーク等）</li> <li>・ 女性活躍推進法に基づく「えるぼし認定」</li> <li>・ 次世代育成支援対策推進法に基づく「くるみん認定・プラチナくるみん認定」</li> <li>・ 若者雇用促進法に基づく「ユースエール認定」</li> <li>・ その他、本業務に関すると思われる資格・認証</li> </ul> </li> </ul>	5
<b>2. 業務の実施方針等</b>		<b>120</b>
(1) 業務実施の基本方針（留意点）・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 業務の目的及び内容等に基づき業務実施のクリティカルポイントを押さえ、これに対応する業務方針が示されているか。</li> <li>● 提案されている業務の方法については、具体的かつ現実的なものか。</li> <li>● その他本業務の実施に関連して評価すべき提案事項があるか</li> </ul>	75
(2) 業務実施体制、要員計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 提示された業務の基本方針及び方法に見合った実施（管理）体制や要員計画が具体的かつ現実的に提案されているか、業務実施上重要な専門性が確保されているか。具体性のないあいまいな提案については、評価を低くする。</li> <li>● 要員計画について、外部の人材に過度に依存している場合、主要な業務について外注が想定されている場合には、評価を低くする。</li> </ul>	40
(3) 業務実施スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 具体的かつ現実的なスケジュール案が提示されているか。</li> </ul>	5
<b>3. 業務総括者／地方防災計画／事前防災投資分野の経験・能力</b>		<b>50</b>
(1) 類似業務の経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 類似業務については実施件数のみならず、業務の分野（内容）と形態、発注業務との関連性に鑑み総合的に評価する。特に評価する類似案件としては、国内及び途上国での地方防災計画策定・実行、事前防災投資分野に関する各種業務とする。</li> <li>● 概ね過去10年までの類似案件を対象とし、より最近のものに対し高い評価を与える。</li> </ul>	30
(2) 業務総括者としての経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 最近10年の総括経験にプライオリティをおき評価する。</li> </ul>	15
(3) その他学位、資格等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 発注業務と関連性の強い学歴（専門性）、資格、業務経験などがあるか。</li> <li>● その他、業務に関連して評価すべき項目があるか。</li> </ul>	5
合計		200

## 第4 経費に係る留意点

### 1. 経費の積算に係る留意点

経費の積算に当たっては、業務仕様書案に規定されている業務の内容を十分理解したうえで、必要な経費を積算してください。積算を行う上での留意点は以下のとおりです。

#### (1) 経費の費目構成

当該業務の実施における経費の費目構成です。入札金額の積算に当たっては、別紙の積算様式をご使用下さい。ただし下記(2)にあるとおり、入札金額には消費税を含めないで下さい。

##### 1) 業務の報酬

各業務従事者の日額の業務単価を設定し、想定される人日を乗じることで各業務の業務単価を計上すること。各業務の業務単価を足し合わせて、業務の報酬として算出し、これを入札金額とする。

なお、業務単価は、管理費も含め設定すること。管理費には、下記2)を除き、本件業務実施に係る諸経費全てを含むこととする。

##### 2) 直接経費

下記の経費について定額を計上し、支払い実績に応じて精算を行う。

###### ① 資料購入費：

既存資料の調査に必要な資料購入のため、一律100,000円を計上する。精算に関しては、支払いを行った第三者からの領収書をもって行う。

#### (2) 入札金額

「第1. 入札手続き 12. 入札書(6)」のとおり、課税事業者、免税事業者を問わず、入札書には契約希望金額の110分の100に相当する金額を記載願います。価格の競争はこの金額で行います。なお、入札金額の全体に100分の10に相当する額を加算した額が最終的な契約金額となります。

#### (3) 定額で見積る直接経費

直接経費については、100,000円(定額)を計上してください。

当該経費は、入札時点でその適切な見積もりが困難であることから、定額で入札金額に計上することにより、価格競争の対象としません。ただし、本経費に

については、業務完了時に証拠書類に基づき精算を行います。また、契約期間中に増額が必要となる場合には発注者、受注者双方で協議し、当該部分について増額の契約変更を行うことを可とします。

## 2. 請求金額の確定の方法

経費の確定及び支払いについては、以下を想定しています。

業務の完了や成果物等の検査の結果合格した場合、発注者は受注者からの請求に基づき、契約書に定められた額を支払う。

なお直接経費については、契約金額の範囲内において、受注者または共同企業体以外の第三者からの領収書等の証拠書類に基づいて、実費精算する。

その際受注者は業務完了にあたって経費精算報告書を作成し、発注者は精算報告書ならびに証拠書類を検査し、検査結果及び精算金額を通知する。受注者は同通知に基づき、請求書を発行する。

## 3. その他留意事項

(1) 精算手続きに必要な「証拠書類」とは、「その取引の正当性を立証するに足りる書類」を示し、領収書またはそれに代わるものです。証拠書類には、

- 1) 日付
- 2) 宛名（支払者）
- 3) 領収書発行者（支払先）
- 4) 受領印または受領者の署名
- 5) 支出内容
- 6) 支出額

が明記されていなければなりません。

以上

別紙 積算様式



別紙 積算様式

1. 業務の報酬

業務内容	業務単価(円)	業務従事者事の内訳	数量(人日)
調査項目・方針整理		総括 円× 人日 業務従事者 円× 人日 業務従事者 円× 人日	5
各種8ステップ整理		総括 円× 人日 業務従事者 円× 人日 業務従事者 円× 人日	63
総合防災課題別研修講義・視察先ロングリスト作成		総括 円× 人日 業務従事者 円× 人日 業務従事者 円× 人日	70
講義・視察先コアリストと研修単元目標設定		総括 円× 人日 業務従事者 円× 人日 業務従事者 円× 人日	5
予防防災投資実施に限界がある地域の選定と研修目的、講義・視察先リストの作成		総括 円× 人日 業務従事者 円× 人日 業務従事者 円× 人日	37
業務完了報告書の作成・提出		総括 円× 人日 業務従事者 円× 人日 業務従事者 円× 人日	20
合計			200

\*各業務について、総括、担当する業務従事者、業務従事者の日額単価、作業人日を記入の上積算ください。行は適宜追加・削除いただいて結構です。

2. 直接経費 100,000 円 (定額：税抜)

3. 計 (1+2) 円 (税抜)・・・入札金額

4. 消費税等額 (3 \* 消費税率)) 円

5. 合計 (3+4) 円 (税込)

## 第5 契約書（案）

### 業務委託契約書

1. 業務名称 プロジェクト研究「総合防災関連研修内容の検討」
2. 契約金額 金●●●●●●円  
(内 消費税及び地方消費税の合計額 ●●●●円)
3. 履行期間 2021年4月上旬から2021年11月下旬

頭書業務の実施について、独立行政法人国際協力機構（以下「発注者」という。）と●●●●（以下「受注者」という。）とはおのおの対等な立場における合意に基づいて、次の条項によって契約（以下「本契約」という。）を締結し、信義に従って誠実にこれを履行するものとする。

#### （総 則）

- 第1条 受注者は、本契約に定めるところに従い、附属書Ⅰ「業務仕様書」（以下「業務仕様書」という。）に定義する業務を、善良な管理者の注意義務をもって誠実に履行し、発注者は受注者に対しその対価を支払うものとする。
- 2 受注者は、本契約書及び業務仕様書に特別の定めがある場合を除き、業務を実施するために必要な方法、手段、手順については、受注者の責任において定めるものとする。
  - 3 頭書の「契約金額」に記載の「消費税及び地方消費税」（以下「消費税等」という。）とは、消費税法（昭和63年法律第108号）及び地方税法（昭和25年法律第226号）の規定に基づくものである。
  - 4 税法の改正により消費税等の税率が変更された場合は、変更後の税率の適用日以降における消費税等の額は変更後の税率により計算された額とする。ただし、法令に定める経過措置に該当する場合又は消費税率変更前に課税資産の譲渡等が行われる場合は、消費税等の額は変更前の税率により計算された額とする。
  - 5 本契約の履行及び業務の実施（安全対策を含む。）に関し、受注者から発注者に提出する書類は、発注者の指定するものを除き、第5条に定義する監督職員を経由して提出するものとする。
  - 6 前項の書類は、第5条に規定する監督職員に提出された日に発注者に提出されたものとみなす。

- 7 発注者は、本業務の委託に関し、受注者から契約保証金を徴求しない。
- 8 受注者が共同企業体である場合は、その構成員は、発注者に対して、連帯して本契約を履行し、業務を実施する義務を負うものとする。また、本契約に基づく賠償金、違約金及び延滞金が発生する場合は、全構成員による連帯債務とする。

(業務計画書)

第2条 受注者は、本契約締結日から起算して10営業日(営業日とは国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日及び12月29日から1月3日までを除く月曜日から金曜日までの日をいう。以下、同じ。)以内に、業務仕様書に基づいて業務計画書を作成し、発注者に提出しなければならない。ただし、業務仕様書に特別の定めがあるとき又はあらかじめ発注者の承諾を得たときは、この限りでない。

(権利義務の譲渡等)

第3条 受注者は、本契約の地位又は本契約により生ずる権利又は義務を第三者に譲渡し、又は継承させてはならない。ただし、あらかじめ書面による発注者の承諾を得たときは、この限りでない。

(再委託又は下請負の禁止)

第4条 受注者は、業務の実施を第三者に委託し、又は請け負わせてはならない。ただし、業務仕様書に特別の定めがあるとき又はあらかじめ書面による発注者の承諾を得たときは、この限りでない。

2 受注者が、前項ただし書の規定により業務の一部の実施を第三者に委託し、又は請け負わせる場合は、次の各号の条件が課されるものとする。

- (1) 受注者は発注者に対し、本契約により生ずる一切の義務を免れるものではなく、また、受託者又は下請負人の役職員を受注者の役職員とみなし、当該役職員が本契約により生ずる受注者の義務に違反した場合は、受注者が責任を負うものとする。
- (2) 発注者は、受注者に対して、受託者又は下請負人の名称その他必要な事項の通知を求めることができる。
- (3) 第18条第1項第8号イからトまでのいずれかに該当する者を受託者又は下請負人としてはならない。

(監督職員)

第5条 発注者は、本契約の適正な履行を確保するため、独立行政法人国際協力機構地球環境部防災グループ防災第二チーム課長の職にある者を監督職員と定める。

- 2 監督職員は、本契約の履行及び業務の実施に関して、次に掲げる業務を行う権限を有する。
- (1) 第1条第5項に定める書類の受理
  - (2) 本契約に基づく、受注者又は次条に定める受注者の業務責任者に対する指示、承諾及び協議
  - (3) 本契約に基づく、業務工程の監理及び立会
- 3 前項における、指示、承諾、協議及び立会とは、次の定義による。
- (1) 指示 監督職員が受注者又は受注者の業務責任者に対し、監督職員の所掌権限に係る方針、基準、計画等を示し、実施させることをいう。
  - (2) 承諾 受注者又は受注者の業務責任者が監督職員に報告し、監督職員が所掌権限に基づき了解することをいう。
  - (3) 協議 監督職員と受注者又は受注者の業務責任者が対等の立場で合議し、結論を得ることをいう。
  - (4) 立会 監督職員又はその委任を受けたものが作業現場に出向き、業務仕様書に基づき業務が行われているかを確認することをいう。
- 4 第2項第2号の規定に基づく監督職員の指示、承諾及び協議は、原則としてこれを書面に記録することとする。
- 5 発注者は、監督職員に対し本契約に基づく発注者の権限の一部であって、第2項で定める権限以外のものを委任したときは、当該委任した権限の内容を書面により受注者に通知しなければならない。
- 6 発注者は、監督職員を通じて、受注者に対し、いつでも本契約の業務の履行状況の報告を求めることができる。

(業務責任者)

- 第6条 受注者は、本契約の履行に先立ち、業務責任者を定め、発注者に届出をしなければならない。発注者の同意を得て、業務責任者を交代させたときも同様とする。
- 2 受注者は、前項の規定により定めた業務責任者に、業務の実施についての総括管理を行わせるとともに、発注者との連絡に当たらせなければならない。
- 3 業務責任者は、本契約に基づく受注者の行為に関し、受注者を代表する権限(ただし、契約金額の変更、作業項目の追加等業務内容の重大な変更、履行期間の変更、損害額の決定、本契約に係る支払請求及び金銭受領の権限並びに本契約の解除に係るものを除く。)を有するものとする。

(業務内容の変更)

- 第7条 発注者は、必要があると認めるときは、受注者に対して書面による通知によ

り業務内容の変更を求めることができる。

- 2 発注者は、必要があると認めるときは、受注者に対して書面による通知により業務の全部又は一部を一時中止させることができる。
- 3 第1項により業務内容を変更する場合において、履行期間若しくは契約金額を変更する必要があると認められるとき、又は受注者が直接かつ現実に損害を受けたときは、発注者及び受注者は、変更後の履行期間及び契約金額並びに賠償額について協議し、当該協議の結果を書面により定める。
- 4 第2項の場合において、受注者に増加費用が生じたとき、又は受注者が直接かつ現実に損害を受けたときは、発注者はその費用を負担し、又はその損害を賠償しなければならない。この場合において、発注者及び受注者は、負担額及び賠償額を協議し、当該協議の結果を書面により定める。

#### (一般的損害)

第8条 業務の実施において生じた損害(本契約で別に定める場合を除く。)については、受注者が負担する。ただし、発注者の責に帰すべき理由により生じた損害については、発注者が負担する。

#### (第三者に及ぼした損害)

第9条 業務の実施に関し、第三者に及ぼした損害について、当該第三者に対して賠償を行わなければならない場合は、受注者がその賠償額を負担する。

- 2 前項の規定にかかわらず、同項に規定する損害の発生が発注者の責に帰すべき事由による場合は、発注者がその賠償額を負担する。ただし、受注者が、発注者の責に帰すべき事由があることを知りながらこれを発注者に通知しなかったときは、この限りでない。
- 3 前二項の場合において、その他業務の実施に関し、第三者との間に紛争が生じたときは、発注者、受注者協力してその処理解決に当たるものとする。

#### (検査)

第10条 受注者は、業務を完了したときは、遅滞なく、発注者に対して業務完了届を提出しなければならない。この場合において、発注者が認める場合は、受注者は、第14条に規定する経費確定(精算)報告書に代えて、附属書Ⅱ「契約金額内訳書」(以下「契約金額内訳書」という。)に規定する単価等に基づき確定した経費の内訳及び合計を業務完了届に記載することができる。

- 2 業務の完了前に、業務仕様書において可分な業務として規定される一部業務が完了した場合は、受注者は、当該部分業務に係る業務完了届を提出することができる。発注者が受注者に対し、当該部分業務に係る業務完了届の提出を求めたと

きは、受注者は、遅滞なく業務完了届を提出しなければならない。

- 3 発注者は、前 2 項の業務完了届を受理したときは、その翌日から起算して 10 営業日以内に当該業務について確認検査を行い、その結果を受注者に通知しなければならない。

#### (債務不履行)

第 11 条 受注者の責に帰すべき理由により、受注者による本契約の履行が本契約の本旨に従った履行と認められない場合、又は、履行が不能になった場合は、発注者は受注者に対して、完全な履行を請求し、又は履行に代え若しくは履行とともに損害の賠償を請求することができる。この場合において、本契約の目的が達せられない場合は、発注者は、本契約の全部又は一部を解除することができる。

#### (成果物等の取扱い)

第 12 条 受注者は、業務仕様書に成果物（以下「成果物」という。）が規定されている場合は、成果物を、業務仕様書に成果物が規定されていない場合は、業務実施報告書（以下「業務実施報告書」という。）を、第 10 条第 1 項及び第 2 項に規定する業務完了届に添付して提出することとし、第 10 条第 3 項に規定する検査を受けるものとする。

- 2 前項の場合において、第 10 条第 3 項に定める検査の結果、成果物及び業務実施報告書について補正を命ぜられたときは、受注者は遅滞なく当該補正を行い、発注者に補正完了の届を提出して再検査を受けなければならない。この場合において、再検査の期日については、第 10 条第 3 項の規定を準用する。

- 3 受注者は、業務仕様書に業務提出物（以下、「業務提出物」という。）が規定されている場合は、業務提出物を業務仕様書の規定（内容、形態、部数、期限等）に基づき提出し、監督職員の確認を得なければならない。

- 4 受注者が提出した成果物、業務実施報告書及び業務提出物（以下総称して「成果物等」という。）の所有権は、それぞれ第 10 条第 3 項に定める検査合格又は前項に定める監督職員の確認の時に、受注者から発注者に移転する。

- 5 受注者が提出した成果物等の著作権（著作権法第 27 条、第 28 条所定の権利を含む。）は、業務仕様書にて別途定めるもの及び受注者又は第三者が従来から著作権を有する著作物を除き、それぞれ第 10 条第 3 項に定める検査合格又は前項に定める監督職員の確認の時に受注者から発注者に譲渡されたものとし、著作権が受注者から発注者に譲渡された部分の利用又は改変については、受注者は発注者に対して著作者人格権を行使しないものとする。また、成果物等のうち、受注者が従来から著作権を有する著作物については、受注者は、これら著作物を発注者が利用するために必要な許諾を発注者に与えるものとし、第三者が従来から著作権

を有する著作物については、受注者は、責任をもって第三者から発注者への利用許諾を得るものとする。

6 前項の規定は、第 11 条、第 18 条第 1 項、第 19 条第 1 項又は第 20 条第 1 項の規定により本契約を解除した場合についても、これを準用する。

(成果物等の瑕疵担保)

第 13 条 発注者は、前条第 4 項による所有権の移転後において、当該成果物等に瑕疵が発見された場合は、受注者に対して相当の期間を定めてその瑕疵の修補を請求し、又は修補に代え、若しくは修補とともに損害の賠償を請求することができる。

2 前項において受注者が負うべき責任は、前条第 1 項及び 2 項の検査の合格をもって免れるものではない。

3 第 1 項の規定による瑕疵の修補又は損害賠償の請求は、前条第 4 項の所有権の移転後、1 年以内に行わなければならない。

(経費の確定)

第 14 条 受注者は、履行期間末日の翌日から起算して 30 日以内に、発注者に対し、経費確定（精算）報告書（以下「経費報告書」という。）を提出しなければならない。ただし、発注者の事業年度末においては、発注者が別途受注者に通知する日時までに提出するものとする。

2 受注者は、第 10 条第 2 項に定める可分な業務にかかる業務完了届を提出する場合は、当該業務完了届の提出日の翌日から起算して 30 日以内に、発注者に対し、当該業務に係る経費報告書を提出しなければならない。ただし、発注者の事業年度末においては、発注者が別途受注者に通知する日時までに提出するものとする。

3 受注者は、契約金額内訳書のうち精算を必要とする費目についての精算を行うに当たっては、経費報告書の提出と同時に必要な証拠書類一式を発注者に提出しなければならない。

4 発注者は、第 1 項及び第 2 項の経費報告書及び前項の必要な証拠書類一式を検査のうえ、契約金額の範囲内で発注者が支払うべき額（以下「確定金額」という。）として確定し、経費報告書を受領した日の翌日から起算して 30 日以内に、これを受注者に通知しなければならない。

5 前項の金額の確定は、次の各号の定めるところにより行うものとする。

(1) 業務の対価（報酬）

契約金額内訳書に定められた額とする。

(2) 直接経費

契約金額の範囲内において、領収書等の証拠書類に基づく実費精算による。

(支払)

第 15 条 受注者は、第 10 条第 3 項による検査に合格し、前条第 4 項の規定による確定金額の決定通知を受けたときは、発注者に確定金額の支払を請求することができる。

2 発注者は、前項の規定による請求を受けたときは、請求を受けた日の翌日から起算して 30 日以内に支払を行わなければならない。

3 前項の規定にかかわらず、発注者は、受注者の支払請求を受理した後、その内容の全部又は一部に誤りがあると認めるときは、その理由を明示して当該請求書を受注者に返付することができる。この場合は、当該請求書を返付した日から是正された支払請求を発注者が受理した日までの期間の日数は、前項に定める期間の日数に算入しないものとする。

(履行遅滞の場合における損害の賠償)

第 16 条 受注者の責に帰すべき理由により、履行期間内に業務を完成することができない場合において、履行期間経過後相当の期間内に完成する見込みのあるときは、発注者は受注者に履行遅滞により発生した損害の賠償を請求するとともに、成果品の引き渡しを請求することができる。

2 前項の損害賠償の額は、契約金額から既に引渡しを受けた部分に相当する金額を控除した額につき、遅延日数に応じ、年 2.7 パーセントの割合で計算した額とする。

3 発注者の責に帰すべき理由により、発注者が支払義務を負う契約金額の支払が遅れた場合は、受注者は、未受領金額につき、遅延日数に応じ、年 2.7 パーセントの割合で計算した額の遅延利息の支払いを発注者に請求することができる。

(天災その他の不可抗力の扱い)

第 17 条 自然災害又は暴動、ストライキ等の人為的な事象であって、発注者、受注者双方の責に帰すべからざるもの（以下「不可抗力」という。）により、発注者、受注者いずれかによる履行が遅延又は妨げられる場合は、当事者は、その事実発生後遅滞なくその状況を書面により本契約の相手方に通知しなければならない、また、発注者及び受注者は、通知後速やかに書面にて不可抗力の発生の事実を確認し、その後の必要な措置について協議し定める。

2 不可抗力により生じた履行の遅延又は不履行は、本契約上の義務の不履行又は契約違反とはみなさない。

(発注者の解除権)

第 18 条 発注者は、受注者が次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、催告を要



せずして、本契約を解除することができる。

- (1) 受注者の責に帰すべき事由により、本契約の目的を達成する見込みがないと明らかに認められるとき。
- (2) 受注者が本契約に違反し、その違反により本契約の目的を達成することができないと認められるとき。
- (3) 受注者が第 20 条第 1 項に規定する事由によらないで本契約の解除を申し出、本契約の履行を果たさないとき。
- (4) 第 23 条第 1 項各号のいずれかに該当する行為があったとき。
- (5) 受注者に不正な行為があったとき、又は発注者の名誉ないし信用を傷つける行為をしたとき。
- (6) 受注者に仮差押又は仮処分、差押、競売、破産、民事再生、会社更生又は特別清算等の手続開始の申立て、支払停止、取引停止又は租税滞納処分等の事実があったとき。
- (7) 受注者が「独立行政法人国際協力機構関係者の倫理等ガイドライン」に違反したとき。
- (8) 受注者が、次に掲げる各号のいずれかに該当するとき、又は次に掲げる各号のいずれかに該当する旨の新聞報道、テレビ報道その他報道（ただし、日刊新聞紙等、報道内容の正確性について一定の社会的評価が認められている報道に限る。）があったとき。
  - イ 役員等が、暴力団、暴力団員、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力集団等（各用語の定義は、独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程（平成 24 年規程（総）第 25 号）に規定するところにより、これらに準ずる者又はその構成員を含む。以下「反社会勢力」という。）であると認められるとき。
  - ロ 役員等が暴力団員でなくなった日から 5 年を経過しない者であると認められるとき。
  - ハ 反社会的勢力が経営に実質的に関与していると認められるとき。
  - ニ 法人である受注者又はその役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしているとき。
  - ホ 法人である受注者又はその役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的若しくは積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき。
  - ヘ 法人である受注者又はその役員が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしているとき。
  - ト 法人である受注者又はその役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべ

き関係を有しているとき。

チ 受注者が、再委託、下請負又は物品購入等にかかる契約に当たり、その相手方がイからトまでのいずれかに該当することを知りながら、当該者と契約を締結したと認められるとき。

リ 受注者が、イからトまでのいずれかに該当する者を再委託、下請負又は物品購入等にかかる契約の相手方としていた場合（前号に該当する場合を除く。）に、発注者が受注者に対して当該契約の解除を求め、受注者がこれに従わなかったとき。

ヌ その他受注者が、東京都暴力団排除条例又はこれに相当する他の地方公共団体の条例に定める禁止行為を行ったとき。

- 2 前項の規定により本契約が解除された場合（前項第4号の場合を除く。）は、受注者は発注者に対し契約金額（本契約締結後、契約金額の変更があった場合には、変更後の契約金額とする。）の10分の1に相当する金額を違約金として、発注者の指定する期間内に発注者に納付しなければならない。この場合において、発注者の被った実損害額が当該違約金の額を超えるときは、発注者は、受注者に対して、別途、当該超過部分の賠償を請求することができる。

（発注者のその他の解除権）

第19条 発注者は、前条第1項に規定する場合のほか、その理由を問わず、少なくとも30日前に書面により受注者に予告通知のうえ、本契約を解除することができる。

- 2 第1項の規定により本契約を解除した場合において、受注者が受注者の責に帰することができない理由により損害を受けたときは、発注者はその損害を賠償するものとする。賠償額は、受注者が既に支出し、他に転用できない費用に契約業務を完成したとすれば取得しえたであろう利益を合算した金額とする。

（受注者の解除権）

第20条 受注者は、発注者が本契約に違反し、その違反により業務を完了することが不可能となったときは、本契約を解除することができる。

- 2 前項の規定により本契約を解除した場合は、前条第2項の規定を準用する。

（解除に伴う措置）

第21条 発注者は、本契約が解除された場合においては、業務の出来高部分のうち、検査に合格したものについては、引渡しを受けるものとし、当該引渡しを受けたときは、当該引渡しを受けた出来高部分に相応する発注済金額を支払わなければならない。

(調査・措置)

- 第 22 条 受注者が、第 18 条第 1 項各号又は第 23 条第 1 項各号に該当すると疑われる場合は、発注者は、受注者に対して調査を指示し、その結果を文書で発注者に報告させることができ、受注者は正当な理由なくこれを拒否してはならないものとする。
- 2 発注者は、前項の報告を受けたときは、その内容を詳細に確認し、事実の有無を判断するものとする。この場合において、発注者が審査のために必要であると認めるときは、受注者からの説明を求め、必要に応じ受注者の事業所に赴き検査を行うことができるものとする。
- 3 発注者は、第 18 条第 1 項各号又は第 23 条第 1 項各号に該当する不正等の事実を確認した場合は、必要な措置を講じることができるものとする。
- 4 発注者は、前項の措置を講じた場合は、受注者名及び不正の内容等を公表することができるものとする。

(重大な不正行為に係る違約金)

- 第 23 条 受注者が次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、発注者の解除権行使の有無にかかわらず、受注者は契約金額（本契約締結後、契約金額の変更があった場合には、変更後の契約金額とする）の 10 分の 2 に相当する金額を違約金として発注者の指定する期間内に納付しなければならない。
- (1) 次のいずれかの目的により、受注者の役職員又はその指図を受けた者が刑法（明治 40 年法律第 45 号）第 198 条（贈賄）又は不正競争防止法（平成 5 年法律第 47 号）第 18 条（外国公務員等に対する不正の利益の供与等の禁止）に違反する行為を行い刑が確定したとき。また、受注者が同条に相当する外国の法令に違反する行為を行い、同国の司法機関による確定判決又は行政機関による最終処分がなされたときも同様とする。
- イ 本契約の業務の実施にかかる便宜を得る目的
- ロ 本契約の業務の実施の結果を受けて形成された事業の実施を内容とする契約の受注又は事業の許認可の取得等にかかる便宜を得る目的（本契約の履行期間中に違反行為が行われ、又は本契約の経費若しくは対価として支払を受けた金銭を原資として違反行為が行われた場合に限る。）
- (2) 受注者又は受注者の意を受けた関係者が、本契約の業務に関し、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和 22 年法律第 54 号）（以下、「独占禁止法」）第 3 条、第 6 条又は第 8 条に違反する行為を行い、公正取引委員会から独占禁止法第 7 条又は同法第 8 条の 2（同法第 8 条第 1 号若しくは第 2 号に該当する行為の場合に限る。）の規定による排除措置命令を受け、又は第 7 条の 2 第 1 項（同法第 8 条の 3 において読み替えて準用する場合を含む。）の規定に

- よる課徴金の納付命令を受け、当該納付命令が確定したとき。
- (3) 公正取引委員会が、受注者又は受注者の意を受けた関係者に対し、本契約の業務の実施に関して独占禁止法第7条の2第18項の規定による課徴金の納付を命じない旨の通知を行ったとき。
  - (4) 受注者又はその意を受けた関係者（受注者又は当該関係者が法人の場合は、その役員又は使用人）が、本契約の業務の実施に関し、刑法第96条の6（公契約関係競売等妨害）、独占禁止法第89条第1項又は同法第90条1号及び2号に違反する行為を行い刑が確定したとき。
  - (5) 第1号、第2号及び前号に掲げるいずれかの違反行為があったことを受注者（受注者が共同企業体である場合は、当該共同企業体の構成員のいずれか）が認めたととき。ただし、発注者は、受注者が、当該違反行為について自主的な申告を行い、かつ発注者に協力して損害の発生又は拡大を阻止し、再発防止のため適切な措置を講じたときは、違約金を免除又は減額することができる。なお、受注者が共同企業体である場合は、その構成員の一が自主的な申告を行い、かつ発注者に協力して損害の発生又は拡大を阻止し、再発防止のため適切な措置を講じたときは、発注者は、当該構成員に対し、違約金を免除又は減額することができる。
  - (6) 第14条に定める経費確定（精算）報告において受注者が故意又は重過失により虚偽の資料等を提出し、発注者に対して過大な請求を行ったことが認められたとき。
- 2 受注者が前項各号に複数該当するときは、発注者は、諸般の事情を考慮して、同項の規定により算定される違約金の総額を減額することができる。ただし、減額後の金額は契約金額の10分の2を下ることはない。
  - 3 前二項の場合において、発注者の被った実損害額が当該違約金の額を超えるとときは、発注者は、受注者に対して、別途、当該超過部分の賠償を請求することができるものとする。
  - 4 前三項に規定する違約金及び賠償金は、第18条第2項に規定する違約金及び賠償金とは独立して適用されるものとする。
  - 5 受注者が共同企業体である場合であって、当該共同企業体の構成員のいずれかが次の各号のいずれかに該当するときは、第1条第8項の規定にかかわらず、発注者は、当該構成員に対して第1項から第3項までに規定する違約金及び賠償金を請求しないことができる。ただし、第2号に掲げる者のうち当該違反行為を知らずながら発注者への通報を怠ったものについては、この限りでない。
- (1) 第1項第1号又は第4号に該当する場合であって、その判決内容等において、違反行為への関与が認められない者
  - (2) 第1項第5号に該当する場合であって、違反行為があったと認めた構成員が、

当該違反行為に関与していないと認めた者

- 6 前項の適用を受けた構成員（以下「免責構成員」という。）がいる場合は、当該共同企業体の免責構成員以外の構成員が当該違約金及び賠償金の全額を連帯して支払う義務を負うものとする。
- 7 前各項の規定は、本契約の業務が完了した後も引き続き効力を有するものとする。

（賠償金等の徴収）

- 第 24 条 受注者が本契約に基づく賠償金又は違約金を発注者の指定する期間内に支払わないときは、発注者は、その支払わない額が発注者の指定する期間を経過した日から契約金額支払いの日まで年 2.7 パーセントの割合で計算した利息を付した額と、発注者の支払うべき契約金額とを相殺し、なお不足があるときは追加徴収する。
- 2 前項の追加徴収をする場合は、発注者は、受注者から遅延日数につき年 2.7 パーセントの割合で計算した額の延滞金を徴収する。

（秘密の保持）

- 第 25 条 受注者（第 4 条に基づき受注者が選任する再委託先又は下請負人を含む。本条において以下同じ。）は、業務の実施上知り得た情報（以下「秘密情報」という。）を秘密として保持し、これを第三者に開示してはならない。ただし、次の各号に定める情報については、この限りでない。
- (1) 開示を受けた時に既に公知であったもの
  - (2) 開示を受けた時に既に受注者が所有していたもの
  - (3) 開示を受けた後に受注者の責に帰さない事由により公知となったもの
  - (4) 開示を受けた後に第三者から秘密保持義務を負うことなく適法に取得したものの
  - (5) 開示の前後を問わず、受注者が独自に開発したことを証明しうるもの
  - (6) 法令並びに政府機関及び裁判所等の公の機関の命令により開示が義務付けられたもの
  - (7) 第三者への開示につき、発注者又は秘密情報の権限ある保持者から開示について事前の承認があったもの
- 2 受注者は、秘密情報について、業務の履行に必要な範囲を超えて使用、提供又は複製してはならない。また、いかなる場合も改ざんしてはならない。
  - 3 受注者は、本契約の業務に従事する者（下請負人がある場合には下請負人を含む。以下「業務従事者等」という。）が、その在職中、退職後を問わず、秘密情報を保持することを確保するため、秘密取扱規定の作成、秘密保持誓約書の徴収そ

の他必要な措置を講じなければならない。

- 4 受注者は、秘密情報の漏えい、滅失又はき損その他の秘密情報の管理に係る違反行為等が発生したときは、直ちに被害の拡大防止及び復旧等のために必要な措置を講ずるとともに、速やかに発注者に報告し、発注者の指示に従わなければならない。
- 5 発注者は、必要があると認めるときは、受注者の同意を得た上で、受注者の事務所等において秘密情報が適切に管理されているかを調査し、管理状況が不適切である場合は、改善を指示することができる。
- 6 受注者は、本契約業務の完了後、速やかに秘密情報の使用を中止し、秘密情報を含む書類、図面、写真、フィルム、テープ、ディスク等の媒体（受注者が作成した複製物を含む。）を発注者に返却し、又は、当該媒体に含まれる秘密情報を復元できないよう消去若しくは当該媒体を破壊した上で、破棄し、その旨を発注者に通知しなければならない。ただし、発注者から指示があるときはそれに従うものとする。
- 7 前各項の規定は、本契約の業務が完了した後も引き続き効力を有する。

#### （個人情報保護）

第26条 受注者は、本契約において、発注者の保有個人情報（「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」（平成15年法律第59号。以下「独立行政法人個人情報保護法」という。）第2条第5項で定義される保有個人情報を指し、以下「保有個人情報」という。）を取り扱う場合は、次の各号に定める義務を負うものとする。

- （1）業務従事者等に次の各号に掲げる行為を遵守させること。ただし、予め発注者の承認を得た場合は、この限りでない。
  - イ 保有個人情報について、改ざん又は業務の履行に必要な範囲を超えて利用、提供、複製してはならない。
  - ロ 保有個人情報を第三者へ提供し、その内容を知らせてはならない。
- （2）業務従事者等が前号に違反したときは、受注者に適用のある独立行政法人個人情報保護法が定める罰則が適用され得ることを、業務従事者等に周知すること。
- （3）保有個人情報の管理責任者を定めること。
- （4）保有個人情報の漏えい、滅失、き損の防止その他個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じること。受注者は、発注者が定める個人情報保護に関する実施細則（平成17年細則（総）第11号）を準用し、当該細則に定められた事項につき適切な措置を講じるものとする。特に個人情報を扱う端末の外部への持ち出しは、発注者が認めるときを除き、これを行ってはならない。

- (5) 発注者の求めがあった場合は、保有個人情報の管理状況を書面にて報告すること。
- (6) 保有個人情報の漏えい、滅失又はき損その他の本条に係る違反行為等が発生したときは、直ちに被害の拡大防止及び復旧等のために必要な措置を講ずるとともに、速やかに発注者に報告し、その指示に従うこと。
- (7) 受注者は、本契約の業務実施の完了後、速やかに保有個人情報の使用を中止し、保有個人情報を含む書類、図面、写真、フィルム、テープ、ディスク等の媒体（受注者が作成した複製物を含む。）を発注者に返却し、又は、当該媒体に含まれる保有個人情報を復元できないよう消去若しくは当該媒体を破壊した上で破棄し、当該廃棄した旨を記載した書面を発注者に提出しなければならない。ただし、発注者から指示があるときはそれに従うものとする。
- 2 発注者は、必要があると認めるときは、受注者の事務所等において、保有個人情報が適切に管理されているかを調査し、管理状況が不適切である場合は、改善を指示することができる。
- 3 第1項第1号及び第6号並びに前項の規定は、本契約の業務が完了した後も引き続き効力を有する。

(特定個人情報保護)

第26条の2 削除

(情報セキュリティ)

第27条 受注者は、発注者が定める情報セキュリティ管理規程（平成29年規程(情)第14号)及び情報セキュリティ管理細則(平成29年細則(情)第11号)を準用し、当該規定及び細則に定められた事項につき適切な措置を講じるものとする。

(安全対策)

第28条 受注者は、業務従事者等の生命・身体等の安全優先を旨として、自らの責任と負担において、必要な安全対策を講じて、業務従事者等の安全確保に努めるものとする。

(業務災害補償等)

第29条 受注者は、自己の責任と判断において業務を遂行し、受注者の業務従事者等の業務上の負傷、疾病、障害又は死亡にかかる損失については、受注者の責任と負担において十分に付保するものとし、発注者はこれら一切の責任を免れるものとする。

(海外での安全対策)

### 第 30 条 削除

(業務引継に関する留意事項)

第 31 条 本契約の履行期間の満了、全部若しくは一部の解除、又はその他理由の如何を問わず、本契約の業務が完了した場合には、受注者は発注者の求めによるところに従い、本契約の業務を発注者が継続して遂行できるように必要な措置を講じるか、又は第三者に移行する作業を支援しなければならない。

(契約の公表)

第 32 条 受注者は、本契約の名称、契約金額並びに受注者の名称及び住所等が一般に公表されることに同意するものとする。

2 受注者が法人であって、かつ次の各号のいずれにも該当する場合は、前項に定める情報に加え、次項に定める情報が一般に公表されることに同意するものとする。

(1) 発注者において役員を経験した者が受注者に再就職していること、又は発注者において課長相当職以上の職を経験した者が受注者の役員等として再就職していること

(2) 発注者との取引高が、総売上高又は事業収入の 3 分の 1 以上を占めていること

3 受注者が前項の条件に該当する場合に公表される情報は、以下のとおりとする。

(1) 前項第 1 号に規定する再就職者に係る情報（氏名、現在の役職、発注者における最終職名）

(2) 受注者の直近 3 カ年の財務諸表における発注者との間の取引高

(3) 受注者の総売上高又は事業収入に占める発注者との間の取引高の割合

4 受注者が「独立行政法人会計基準」第 13 章第 6 節に規定する関連公益法人等に該当する場合は、受注者は、同基準第 13 章第 7 節の規定される情報が、発注者の財務諸表の付属明細書に掲載され一般に公表されることに同意するものとする。

(準拠法)

第 33 条 本契約は、日本国の法律に準拠し、同法に従って解釈されるものとする。

(契約外の事項)

第 34 条 本契約に定めのない事項又は本契約の条項について疑義が生じた場合は、必要に応じて発注者及び受注者が協議して、これを定める。



(合意管轄)

第 35 条 本契約に関し、裁判上の紛争が生じた場合は、当該紛争の内容や形式如何を問わず、東京地方裁判所又は東京簡易裁判所を第一審の専属的管轄裁判所とする。

本契約の証として、本書 2 通を作成し、発注者、受注者記名押印のうえ、各自 1 通を保持する。

20●●年●●月●●日

発注者

東京都千代田区二番町 5 番地 2 5

独立行政法人国際協力機構

契約担当役

理 事 ○○ ○○

受注者

# 様式集

## <参考様式>

### ■入札手続に関する様式

1. 各種書類受領書（次ページに PDF でも添付しています）
2. 競争参加資格確認申請書
3. 委任状（次ページに PDF でも添付しています）
4. 入札書（次ページに PDF でも添付しています）
5. 共同企業体結成届（共同企業体の結成を希望する場合）
6. 質問書
7. 辞退理由書
- 8.

### ■技術提案書作成に関する様式

1. 技術提案書表紙
2. 技術提案書参考様式（別の様式でも提出可）
3. 辞退理由書

以上の参考様式のデータは、国際協力機構ホームページ「調達情報」→「調達ガイドライン、様式」→「様式 一般競争入札：総合評価落札方式（国内向け物品・役務等）」よりダウンロードできます。  
([https://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/op\\_tend\\_evaluation.html](https://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/op_tend_evaluation.html) )

### ■本件指定様式は次ページ以降に添付しています。

1. 入札書
2. 入札書（代理人ありの場合）
3. 委任状
4. 各種書類受領書

なお、各様式のおもてには、以下の事項を記載してください。

- ・宛先：独立行政法人国際協力機構 本部 契約担当役 理事
- ・業務名称：プロジェクト研究「総合防災関連研修内容の検討」
- ・調達管理番号：20a00845
- ・公告日：2021年2月17日

入 札 書

2000年 月 日

独立行政法人国際協力機構  
本部契約担当役 理事 殿

住所  
商号／名称  
代表者役職・氏名 (印)

件名：「(業務名称)」(調達管理番号△△△△△△△△)

標記の件について入札公告及び入札説明書に記載されている全ての事項を了承のうえ、一括下記のとおり入札いたします。

金														円
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

※消費税等に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積った契約希望金額の110分の100に相当する金額を記載のこと。契約金額は入札書に記載された金額に当該金額の100分の10に相当する額を加算した金額となります。

- 
- ※ 法人の名称又は商号並びに代表者名を明記し、押印して下さい。
  - ※ 代表者印を押印ください。ただし、社印でも有効とします。
  - ※ 調達管理番号△△△△△△△△は、入札説明書に記載されています。
  - ※ 再入札に限り、代表者が入札を行う場合は、代表者本人の個人印の押印により入札が可能です。ただし、身分証明できる書類を提示する必要があります。
  - ※ 代理人による入札の場合は様式 4-2 を使用してください。
  - ※ 一般競争入札（総合評価落札方式）において第1回目の入札書は（代理人が入札会に参加するときでも）、原則として本様式を使用してください。
  - ※ 様式の手続きは、国際協力機構ホームページ「調達情報」→「調達ガイドライン、様式」→「様式 一般競争入札：最低価格落札方式（国内向け物品・役務等）」もしくは「様式 一般競争入札：総合評価落札方式（国内向け物品・役務等）」よりダウンロードできます。
- [http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/op\\_tend\\_price.html](http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/op_tend_price.html)  
[http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/op\\_tend\\_evaluation.html](http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/op_tend_evaluation.html)

# 入 札 書

2000年 月 日

独立行政法人国際協力機構  
本部契約担当役 理事 殿

住所  
商号／名称  
代表者役職・氏名  
代理人

Ⓜ

件名：「(業務名称)」(調達管理番号△△△△△△△△)

標記の件について入札公告及び入札説明書に記載されている全ての事項を了承のうえ、一括下記のとおり入札いたします。

金											円
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

※消費税等に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積った契約希望金額の110分の100に相当する金額を記載のこと。契約金額は入札書に記載された金額に当該金額の100分の10に相当する額を加算した金額となります。

- 
- ※ この様式を使用する場合には様式3の委任状が必要です。
  - ※ 代表者印もしくは社印に代えて代理人印を押印ください。
  - ※ 調達管理番号△△△△△△△△は、入札説明書に記載されています。
  - ※ 代表者による入札の場合は様式4-1を使用してください。
  - ※ 一般競争入札(総合評価落札方式)において第1回目の入札書は(代理人が入札会に参加するときでも)、原則としてこちらではなく代表者印もしくは社印による4-1の様式を使用してください。
  - ※ 様式のデータは、国際協力機構ホームページ「調達情報」→「調達ガイドライン、様式」→「様式 一般競争入札：最低価格落札方式(国内向け物品・役務等)」もしくは「様式 一般競争入札：総合評価落札方式(国内向け物品・役務等)」よりダウンロードできます。  
[http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/op\\_tend\\_price.html](http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/op_tend_price.html)  
[http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/op\\_tend\\_evaluation.html](http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/op_tend_evaluation.html)

(様式3)

## 委 任 状

年 月 日

独立行政法人国際協力機構  
本部契約担当役 理事 殿

住所  
商号／名称  
代表者役職・氏名 ㊟

私は、弊社社員 ㊟ を代理人と定め、下記の事項を委任します。

### 委 任 事 項

「案件名： (調達管理番号 )  
について、 年 月 日 に行なわれる貴機構の入札会に関する一切の権限  
以 上

- 
- ※ 法人の名称又は商号並びに代表者名を明記し、押印してください。
  - ※ 代表者印を押印ください。ただし、社印でも有効とします。
  - ※ 受任者（代理人）の氏名及び押印が必要です。
  - ※ 「入札会に関する一切の権限」には、以下が含まれると認識しています。
    - ・ 入札会への立会及び入札会における入札執行者との質疑応答
    - ・ 入札書の作成と入札箱への投函（一般競争入札（総合評価落札方式）においては、入札書は事前に提出されているため、入札書の作成及び投函は「入札会に関する」事項には当てはまらず、本委任の対象外です。但し、再入札では、入札会において入札書を作成の上投函するため、本委任事項の対象となります。）
  - ※ 様式のデータは、国際協力機構ホームページ「調達情報」→「調達ガイドライン、様式」→「様式 一般競争入札：最低価格落札方式（国内向け物品・役務等）」もしくは「様式 一般競争入札：総合評価落札方式（国内向け物品・役務等）」よりダウンロードできます。  
[http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/op\\_tend\\_price.html](http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/op_tend_price.html)  
[http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/op\\_tend\\_evaluation.html](http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/op_tend_evaluation.html)

# 各種書類受領書

(国内向け物品・役務の調達)

以下に記入のうえ2部作成し、書類とともにご提出ください(手書き可)。

※国契-〇〇-〇〇〇 もしくは 調達管理番号△△△△△△△△△△は入札説明書にいずれかが記載されていますので、どちらか一方を入れてください(2020年度以降は、調達管理番号のみになります)。

公告番号※			
業務名称			
貴社名			
ご担当者部署名		ご担当者名	
メールアドレス	@	電話番号	- -

提出書類(□にチェックを入れてください)

**競争参加資格確認申請**

**【1】全案件に共通に必要な書類**

競争参加資格確認申請書(所定の様式)

全省庁統一資格審査結果通知書(写)

資格確認結果通知返信用封筒(定形サイズ。所定料金の切手貼付)

共同企業体結成届及び共同企業体構成員の資格確認書類(共同企業体を結成する場合)

**【2】入札/企画競争説明書に記載がある場合に必要書類**

財務諸表(決算が確定した過去3会計年度分)

秘密情報の取扱いにかかる競争参加者の社内規則

競争参加者に係る親会社・子会社等の資本関係等に係る関係図

競争参加者の発行済株式の1%以上を保有する株主名、持株数、持株比率

競争参加者の取締役(監査等委員を含む。)の略歴

情報セキュリティに関する資格・認証等(取得している場合)

その他(書類名をご記入ください)

( )

下見積書(正1部)

以下、調達方式に応じ、入札/企画競争説明書に記載されている場合

**「最低価格落札方式」**(原則として、競争参加資格確認申請書提出時)

類似業務実績一覧表

配置予定者の経歴書

その他の資格要件証明書類(写)(名称: )

**「総合評価落札方式」**(原則として、技術提案書提出時)

技術提案書(正1部、写部)

入札書(厳封1部)

技術審査結果通知返信用封筒(定形サイズ。所定料金の切手貼付)

**「企画競争」**(原則として、プロポーザル提出時)

プロポーザル(正1部、写部)

見積書(正1部、写1部)

評価結果通知返信用封筒(定形サイズ。所定料金の切手貼付)

機密保持誓約書

その他(書類名をご記入ください)

( )

配布/貸与資料の受領(配布期間: / ~ / )

受領済み資料の返却

独立行政法人国際協力機構 調達部受領印